Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX S1100pj

クールピクス S1100pj

使用説明書

商標説明

- Microsoft、PowerPoint、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDXC、SDHC、SDロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- ACCESS、NetFrontは、日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの登録商標または商標です。NetFront™
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
http://www.mpegla.comをご参照ください。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は次のようになっています。

⚠**危険**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠**警告**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠**注意**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

 使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
 発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
 保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
 保管注意	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** **特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
 警告	**指定の電池または専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
 使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
 発光禁止	**車の運転者等にむけて動画照明を発光しないこと** 事故の原因となります。
 投映禁止	**プロジェクターを車の運転者などにむけて投映しないこと** 事故の原因になることがあります。

 発光禁止	**動画照明を人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
 保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
 保管注意	**使用しないときは、電源をOFFにしてレンズを遮光し、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
 移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
 使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
 電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをお使いの際には、電源プラグをコンセントから抜いて、その後でカメラを取り外してください。火災の原因となることがあります。

発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因となることがあります。
直視しない	**動画照明の光を直接見ないこと** 視覚に悪影響を及ぼすことがあります。
直視しない	**プロジェクターの光を直接見ないこと** 視覚に悪影響を及ぼすことがあります。
投映禁止	**プロジェクターを人の目に近づけて投映しないこと** 視覚に悪影響を及ぼすことがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
(専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて)

 禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX S1100pjに対応しています。EN-EL12に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 危険	**ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーを付けてください。
 危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
(専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて)

 保管注意	**電池は幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
 水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
 使用禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
 警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（バッテリーチャージャーについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出した時は、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにバッテリーチャージャーをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーチャージャーをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。 バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると、火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら、バッテリーチャージャーに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
感電注意	**ぬれた手でバッテリーチャージャーを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。
禁止	**海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠注意
（バッテリーチャージャーについて）

表示	内容
感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置禁止	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

⚠危険
（リモコン用リチウム電池について）

表示	内容
危険	**電池からもれた液が目に入った時はすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（リモコン用リチウム電池について）

表示	内容
禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池に表示された警告･注意を守ること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**使用説明書に表示された電池を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
警告	**電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**充電式電池以外は充電しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池を廃棄する時はテープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX S1100pjをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、およびSDXC メモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録できます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/support/

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のLi-ionリチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。

ホログラムシール

- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

  http://www.nikon-image.com/support/manual/

  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

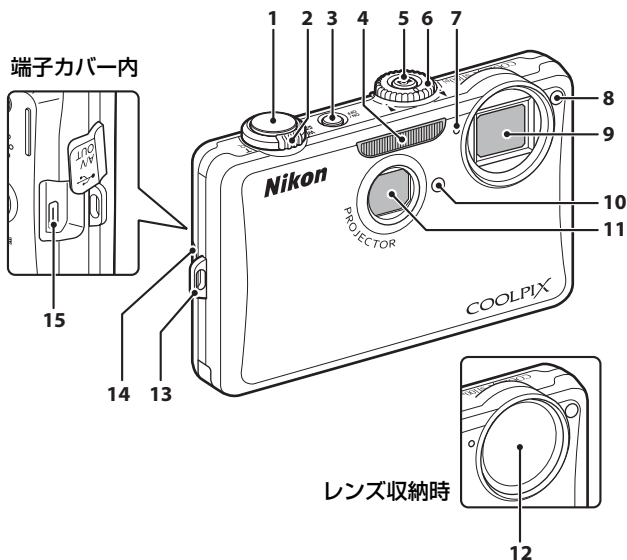
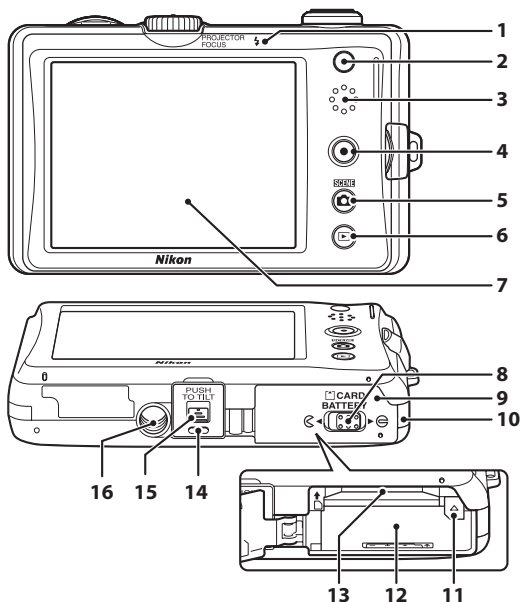
メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（🕮144）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

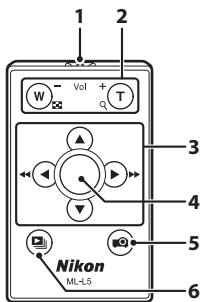
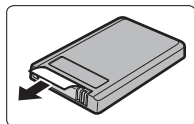
この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

各部の名称

カメラ本体

1	シャッターボタン 30
2	ズームレバー ....29 W ：広角ズーム ....29 T ：望遠ズーム ....29 ⊞ ：サムネイル表示 ....80 Q ：拡大 82
3	電源スイッチ/電源ランプ ....26、153
4	フラッシュ 34
5	📽（プロジェクター）ボタン ....9、163
6	プロジェクターフォーカスダイヤル 163
7	マイク ....106、123
8	セルフタイマーランプ ....37 AF補助光 ....151 動画照明 126
9	レンズ ....175、192
10	リモコン受光部（前面）... 48、164
11	プロジェクター窓 163
12	レンズバリアー 176
13	ストラップ取り付け部 7
14	端子カバー ....129、132、137
15	USB/オーディオビデオ出力端子 ....129、132、137

1	フラッシュランプ 35
2	リモコン受光部（背面）... 48、164
3	スピーカー ....107、128
4	●（動画撮影）ボタン ......9、123
5	📷（撮影モード）ボタン ....8、49
6	▶（再生）ボタン ....8、32、83
7	液晶モニター /タッチパネル 12
8	ロックレバー ....20、24
9	バッテリー /SDカードカバー ....20、24
10	パワーコネクターカバー（別売ACアダプター接続用）... 179
11	バッテリーロックレバー ....20、21
12	バッテリー室 20
13	SDカードスロット 24
14	プロジェクター脚 165
15	プロジェクター脚ロックレバー 165
16	三脚ネジ穴

リモコン ML-L5

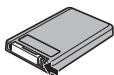
撮影時にシャッターをきれます（□48）。プロジェクターモード（□163）では、投映する画像を切り換えたり、動画を再生したりできます。
リモコンをはじめて使うときは、電池の絶縁シートを矢印方向に取り除いてください。

1	リモコン送信部
2	ズームボタン（撮影時） W ：広角ズーム T ：望遠ズーム ズームボタン （プロジェクターモード時） ▦ ：サムネイル表示 🔍 ：拡大 − ：音量小 ＋ ：音量大
3	▲▼◀▶（上下左右選択）ボタン
4	決定ボタン
5	（プロジェクター）ボタン
6	（スライドショー）ボタン

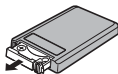
リモコン操作の詳しい説明は、以下のページをご覧ください。
- 撮影モード時：「リモコンでシャッターをきる」（□48）
- プロジェクターモード時：「プロジェクターで投映する（プロジェクターモード）」（□163）、「 プロジェクターでスライドショーを再生する」（□169）

リモコン用電池についてのご注意

- リモコン用電池を交換するときは、電池の「＋」と「−」の向きを確認してください。
- 「安全上のご注意」の「危険」（□vi）、「警告」（□vi）の注意事項を必ずお守りください。

リモコン用電池（3V CR2025型リチウム電池）の交換方法

①

つまみを矢印の方向に押します。

②

つまみを押したまま、電池ホルダーに爪をかけてまっすぐ引き出します。

③

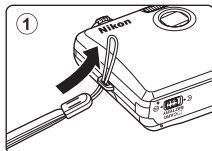
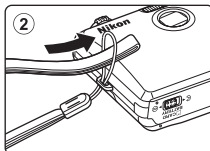
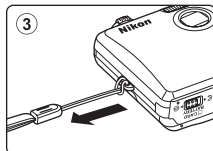
使用済みの電池を外します。

④

電池ホルダーに新しい電池をセットします。「＋」の向きにご注意ください。

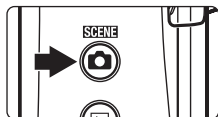
⑤

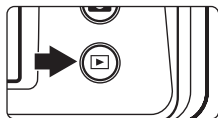
電池ホルダーを押し込みます。

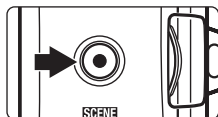
ストラップの取り付け方

主なボタン操作

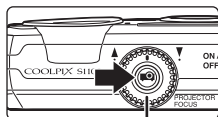
シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出が合い、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

📷（撮影モード）ボタン

- 再生モードまたはプロジェクターモードで 📷 ボタンを押すと、撮影モードになります。
- 撮影モードで📷ボタンを押すと、「撮影モードメニュー」を表示して、撮影モードの切り換えができます（📖49）。

▶（再生）ボタン

- 撮影モードで▶ボタンを押すと、再生モードになります。
- 再生モードまたはプロジェクターモードで ▶ ボタンを押すと、「再生モードメニュー」を表示して、再生モードの切り換えができます（📖83）。
- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。

●（動画撮影）ボタン

- 撮影モードで●（動画撮影）ボタンを押すと、動画の撮影を開始します（📖123）。動画撮影の終了も●（動画撮影）ボタンを押します。
- 再生モードで●（動画撮影）ボタンを押すと、撮影モードになります。

（プロジェクター）ボタン

プロジェクターフォーカスダイヤル（📖163）

- 撮影モードまたは再生モードで ボタンを押すと、プロジェクターモードになります。
- もう一度 ボタンを押すと、プロジェクターモードを終了します。

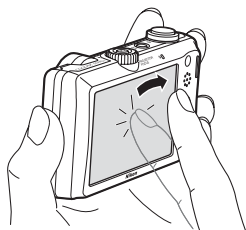
タッチパネルの操作方法

COOLPIX S1100pjの液晶モニターは、タッチパネルになっています。指や付属のタッチペンで画面をタッチして操作します。

タッチする

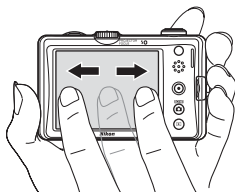
タッチパネルに触れて離す動作です。

以下の操作に使います。

- アイコンを選ぶ
- サムネイル表示中（□80）に画像を選ぶ
- タッチシャッター（□41）、タッチAF/AE（□44）またはターゲット追尾（□55）を使う
- 撮影時や再生時にタブを操作して設定アイコンを表示する（□16）

ドラッグする

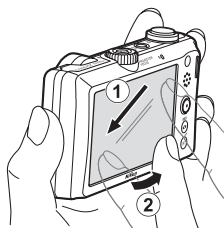
タッチパネルに触れたまま動かし、離す動作です。

以下の操作に使います。

- 再生中（1コマ表示時）（□32）に前後の画像を表示する
- 画像の拡大表示中（□82）に表示範囲を移動する
- 露出補正（□47）などのスライダー操作

ドラッグアンドドロップする

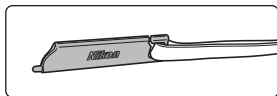
タッチパネルに触れたまま、目的の場所まで動かして（①）離す（②）動作です。

以下の操作に使います。

- ランク設定（□97）をする
- プロジェクターモードのスライドショー（□170）で再生する画像を選ぶ

タッチペンについて

指で操作しにくいときや、画像にペイントするとき（□110）などはタッチペンを使うと便利です。

タッチペンの取り付け方

タッチペンは図のようにストラップに取り付けできます。

✔ タッチパネルについてのご注意

- 付属のタッチペン以外の先のとがった硬い物で押さないでください。
- タッチパネルを必要以上に強く押したり、こすったりしないでください。

✔ タッチ/ドラッグするときのご注意

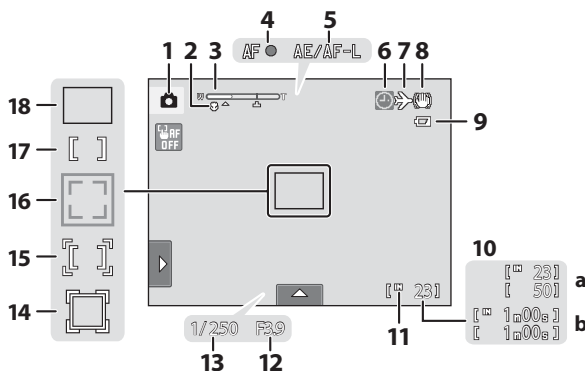
- タッチするときに、指をタッチパネルに触れたままにすると、適切に動作しないことがあります。
- ドラッグするときに、以下の操作をすると、適切に動作しないことがあります。
  - タッチパネルを弾く
  - 指を動かす距離が短すぎる
  - タッチパネルを軽くなでるように指を動かす
  - 指を動かす速度が速すぎる

✔ タッチペンについてのご注意

- タッチペンは乳幼児の手の届くところには置かないでください。
- タッチペンを持って、カメラを持ち運ばないでください。タッチペンからストラップが外れて、カメラが落下することがあります。

液晶モニター/タッチパネルの主な表示と基本操作

撮影時（情報表示）

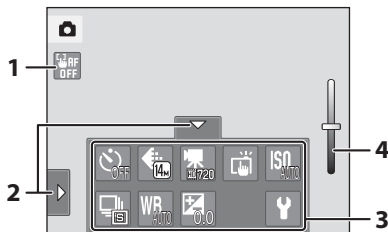
表示される情報は、カメラの設定や状態によって異なります。

1	撮影モード※1	26、52、61、73
2	マクロ領域表示	54
3	ズーム表示	29、54
4	AF表示	30
5	AE/AF-L表示	72
6	日時未設定	182
	デート写し込み	149
7	訪問先	145
8	手ブレ補正	150
9	バッテリー残量表示	26
10	a 記録可能コマ数（静止画）※2	26
	b 記録可能時間（動画）	123
11	内蔵メモリー表示	27
12	絞り値	30
13	シャッタースピード	30
14	AFエリア（ターゲット追尾時）	55
15	AFエリア（タッチAF/AE時）	44
16	AFエリア（顔認識時）	30、73
17	AFエリア（中央時）	
18	AFエリア（オート）	50

※1　アイコンは、撮影モードによって異なります。

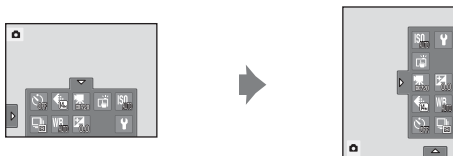
※2　撮影できる残りのコマ数が50コマ以下になると、表示されます。

撮影時（操作部）

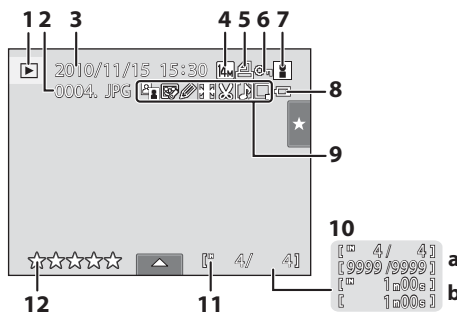
以下のアイコンをタッチすると設定の切り換えなどができます。

- タブをタッチすると設定アイコンが表示され、撮影時の設定を変更できます（□16）。
- 撮影モードや設定状態などによって、操作できる項目や表示は異なります。

1	タッチAF/AE解除	44
2	タブ	16
3	設定アイコン	17
4	シーンエフェクト調整スライダー	63

縦位置にしたときのモニター表示

カメラ本体を縦位置にすると、以下のようにアイコンの表示も縦位置用の向きに回転します。カメラを上向きや下向きにすると、適切な方向で表示できないことがあります。

再生時（情報表示）

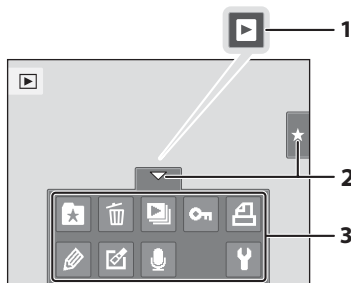
以下の表示は、再生中の画像の情報やカメラの状態を示しています。

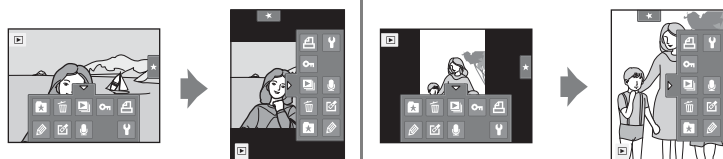
- 表示される情報は、再生中の画像の種類やカメラの状態によって異なります。
- 画像情報は、電源をONにしたときや、操作したときなどに表示され、数秒経過すると消えます（148）。

1	再生モード※1 ....32、84、91、94
2	ファイル名 181
3	撮影日/撮影時刻 22
4	画像モード※2 ....39 動画設定※2 125
5	プリント指定 101
6	プロテクト設定 99
7	お気に入り項目表示※3 ....86 オート分類項目表示※3 91
8	バッテリー残量表示 26
9	簡単レタッチ ....113 D-ライティング ....114 メイクアップ効果 ....119 フィルター効果 ....117 ペイント ....110 スリム効果 ....115 アオリ効果 ....116 トリミング ....122 音声メモ ....107 スモールピクチャー 121
10	**a** 画像の番号/全画像数 ....32 **b** 動画の再生時間 128
11	内蔵メモリー表示 27
12	ランク表示 97

※1 アイコンは、再生モードによって異なります。
※2 アイコンは、撮影時の設定によって異なります。
※3 再生時に選んだお気に入りフォルダーやオート分類項目のアイコンが表示されます。

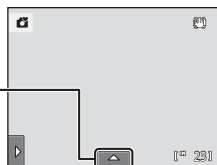
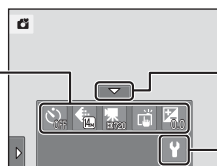
再生時（操作部）

以下のアイコンをタッチすると設定の切り換えなどができます。

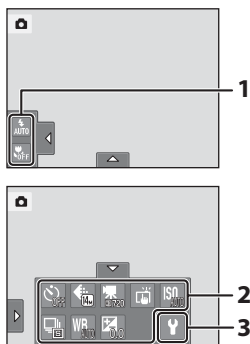
- タブをタッチすると設定アイコンが表示され、削除や編集などができます（□16）。
- 再生中の画像の種類や、カメラの状態によって、操作できる項目や表示は異なります。

画像の表示について

カメラ本体を回転すると、以下のように画像とアイコンの表示が切り換わります。
カメラを上向きや下向きにすると、適切な回転方向で表示できないことがあります。

タブの基本操作

撮影時や再生時に、画面下や左右に表示されるタブをタッチすると、設定アイコンが表示され、撮影または再生に関する設定ができます。

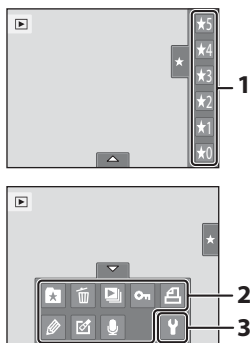
- 設定したい項目のアイコンをタッチすると、その項目の設定画面になります。
- 設定アイコンの🔧（セットアップ）をタッチすると、カメラの基本的な設定ができます。
- 設定画面で☒または⮌が表示されたときは、☒をタッチすると設定画面を終了します。⮌をタッチするとひとつ前の画面に戻ります。
- 設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

撮影時

撮影に関する設定ができます。

- 設定できる項目は、撮影モード（📖49）によって異なります。
- 各アイコンは、現在の設定も示しています。

番号	項目	ページ
1	フラッシュ	34
	マクロ	54
2	セルフタイマー	37
	画像モード	39
	動画設定	125
	タッチ撮影	
	タッチシャッター	41
	タッチAF/AE	44
	ターゲット追尾	55
	ISO感度設定	57
	連写	58
	ホワイトバランス	59
	露出補正	47
3	セットアップ	142

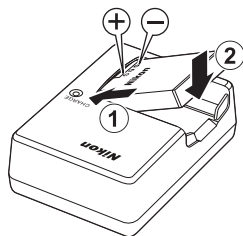
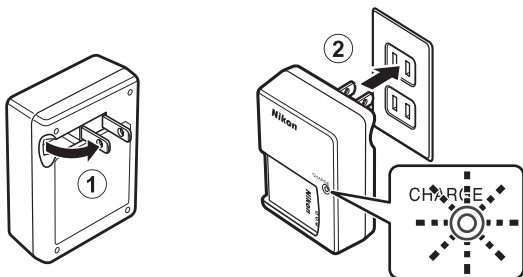
再生時

画像の削除、再生に関する設定や画像の編集などができます。

- 設定できる項目は、画像または再生モードの種類によって異なります。

番号	項目	ページ
1	ランク設定	97
2	お気に入りフォルダーへの登録（お気に入り再生モード以外）	84
	お気に入りフォルダーからの解除（お気に入り再生モード）	87
	削除	33
	スライドショー	98
	プロテクト設定	99
	プリント指定	101
	ペイント	110
	画像編集	108
	音声メモ	106
3	セットアップ	142

バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12（リチウムイオン充電池）を、付属のバッテリーチャージャー MH-65P（充電器）で充電します。

1 バッテリーを奥に押し込みながら(①)、バッテリーチャージャーにセットする（②）

2 バッテリーチャージャーをコンセントに差し込む

- CHARGE ランプが点滅し、充電が始まります。
- 残量がないバッテリーの場合、充電時間は約2時間30分です。

CHARGE ランプの状態と意味は以下のとおりです。

CHARGEランプ	意味
点滅	バッテリーは充電中です。
点灯	バッテリーの充電が完了しました。
速い点滅	• バッテリーのセットミスです。バッテリーを取り外して、バッテリーチャージャーに寝かせるようにセットしなおしてください。 • 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ～ 35 ℃の室内で充電してください。 • バッテリーの異常です。ただちにバッテリーチャージャーをコンセントから抜いて充電を中止してください。バッテリーおよびバッテリーチャージャーはご購入店またはニコンサービス機関にお持ちください。

3 充電が完了したら、バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り外す

バッテリーチャージャーについてのご注意

- 付属のバッテリーチャージャーは、ニコンLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12 以外には使えません。
- バッテリーチャージャーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」（□v）、「注意」（□vi）の注意事項を必ずお守りください。
- このバッテリーチャージャーは、家庭用電源の AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz に対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめのうえ、お買い求めください。

バッテリーについてのご注意

- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「危険」（□iv）、「警告」（□iv）、「注意」（□v）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」（□177）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。

AC電源について

- 別売のACアダプター EH-62F（□179）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給して撮影または再生ができます。
- EH-62F以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

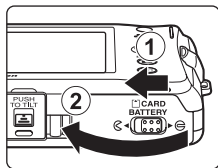
バッテリーを入れる

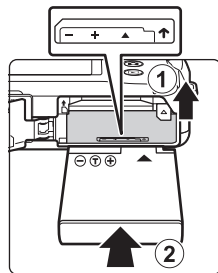
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12（リチウムイオン充電池）をカメラに入れます。

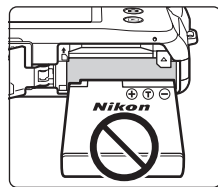
- ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してからお使いください（□18）。

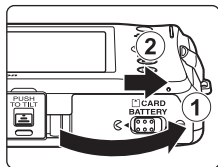
撮影の準備

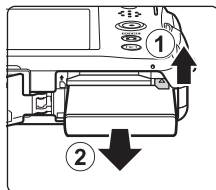
1 バッテリー /SDカードカバーを開ける

- ロックレバーを⊂◂側にスライドさせ（①）、カバーを開けます（②）。

2 バッテリーを入れる

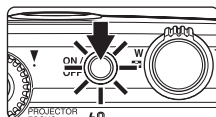
- バッテリー室内の表示を見ながら、＋とーを正しい向きで入れてください。
- バッテリーでオレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押し上げながら（①）、奥まで差し込みます（②）。
- 奥まで差し込むと、バッテリーロックレバーでバッテリーが固定されます。

✔ 逆挿入に注意

バッテリーの向きを間違えると、カメラを破損するおそれがあります。 正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

- カバーを閉じ（①）、ロックレバーを▸⊖側にスライドさせます（②）。

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けてください。
オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと（①）、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

- カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

電源をON/OFFするには

電源スイッチを押すと、電源がONになります。
電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。
もう一度電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。電源がOFFになると液晶モニターも、電源ランプも消灯します。

- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（□32）。

節電機能について（オートパワーオフ）

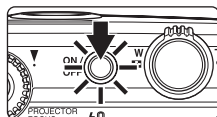
カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
電源ランプの点滅中は、以下のボタンを押すと液晶モニターが再点灯します。
→ 電源スイッチ、シャッターボタン、📷ボタン、▶ボタン、または●（動画撮影）ボタン

- 撮影時または再生時は、約1分（初期設定）で待機状態になります。待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（□142）の［**オートパワーオフ**］（□153）で変更できます。
- プロジェクターモード時（□163）は、約5分（初期設定）で待機状態になります。待機状態になるまでの時間は、プロジェクター設定メニュー（□172）の［**オートパワーオフ**］（□173）で変更できます。

表示言語と日時を設定する

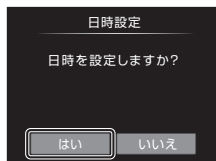
ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- 電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。

2 表示言語をタッチする

- タッチパネルの操作方法→📖10

3 ［はい］をタッチする

- 日時設定を中止するときは［**いいえ**］をタッチします。

4 ◀または▶をタッチして自宅のある地域（タイムゾーン）（📖147）を選び、OKをタッチする

- ↩をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）を導入している地域で、その期間中に日時を設定するときは、手順4の地域設定画面で🌞をタッチして、夏時間の設定をオンにします。

- オンにすると、画面上部に🌞マークが表示されます。
- オフにするには、🌞をタッチします。

撮影の準備

5 年月日の表示順をタッチする

6 日時を合わせる

- 変更したい項目をタッチし、▲または▼をタッチして日時を合わせます。

7 OKをタッチして決定する

- 時計がスタートし、撮影画面になります。

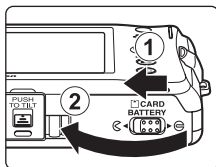
日付の写し込みと日時の変更

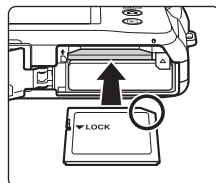
- 撮影時に日付を画像に写し込むときは、日時を設定した後に、セットアップメニュー（□142）の［**デート写し込み**］を設定します（□149）。
- 内蔵時計の日時を変更するときは、セットアップメニュー（□142）の［**日時設定**］（□145）で［**日時**］を選び、上記の手順5から設定します。
- 地域（タイムゾーン）や夏時間の設定を変更するときは、セットアップメニューの［**日時設定**］から［**タイムゾーン**］を選んで設定します（□145）。

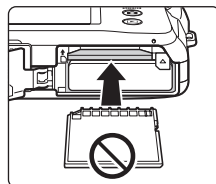
SDカードを入れる

撮影したデータは、カメラの内蔵メモリー（約79 MB）または市販のSDカード（📖180）のどちらかに記録します。
カメラにSDカードを入れるとSDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出します。

1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開ける

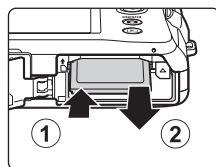
- バッテリー/SDカードカバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 挿入後、バッテリー/SDカードカバーを閉めてください。

逆挿入に注意

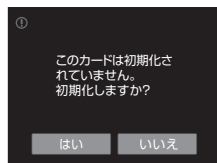
SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

SDカードを取り出すときは

電源をOFFにし、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けてください。
カードを指で軽く奥に押し込むと（①）、カードが押し出されます。まっすぐ引き抜いてください（②）。

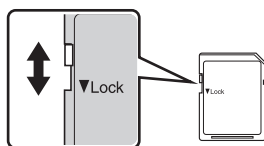
- カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

撮影の準備

SDカードの初期化

電源をONにしたときに右の画面が表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化（154）すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
初期化するときは、［**はい**］をタッチします。確認画面が表示されたら、［**はい**］をタッチし、［**実行**］をタッチすると初期化が始まります。

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化（154）してからお使いください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

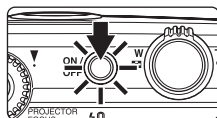
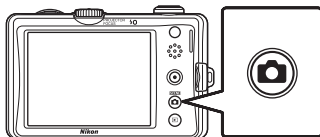
書き込み禁止スイッチ

SDカードの取り扱い上のご注意

- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

ステップ1　電源をONにして（らくらくオート撮影）を選ぶ

（らくらくオート撮影）にすると、構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動的に判別するので、簡単にシーンに合った撮影ができます（□50）。

1　電源スイッチを押して電源をONにする

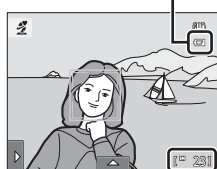
- 電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。
- ご購入時は、（らくらくオート撮影）モードに設定されています。手順4に進んでください。

2　ボタンを押して、撮影モードメニューを表示する

3　液晶モニターのをタッチする

- （らくらくオート撮影）モードになります。

4　液晶モニターでバッテリー残量表示と記録可能コマ数を確認する

バッテリー残量表示

記録可能コマ数

バッテリー残量表示	内容
表示なし	バッテリー残量は充分にあります。
▭	バッテリー残量が少なくなりました。バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
❶ 電池残量がありません	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が50コマ以下になると、表示されます。

記録可能コマ数は内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量と画像モードによって異なります（□40）。

（らくらくオート撮影）モードでの液晶モニター表示

撮影モード
らくらくオート撮影モードでは、被写体や構図に合わせて、、、、、、またはが表示されます。

手ブレ補正表示
手ブレを補正します。

内蔵メモリー表示
画像を内蔵メモリー（約79 MB）に記録します。
SDカードをカメラに入れると、は表示されず、画像をSDカードに記録します。

- 節電による待機状態で液晶モニターが消灯しているときは、以下のボタンを押すと液晶モニターが点灯します（153）。
  - 電源スイッチ、シャッターボタン、ボタン、または●（動画撮影）ボタン

タッチシャッターについてのご注意

初期設定では、画面上の被写体にタッチするだけでシャッターをきることができます（41）。誤ってシャッターをきらないようにご注意ください。

（らくらくオート撮影）モードで使える機能

- 人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせる顔認識撮影ができます（30、50）。
- 左のタブまたは下のタブをタッチして設定アイコンを表示すると、撮影時の設定を変更できます（34）。

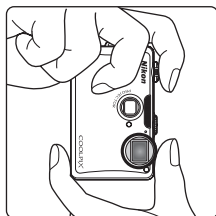
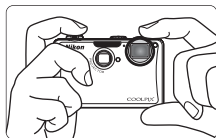
手ブレ補正について

- 詳しくは、セットアップメニュー（142）の［**手ブレ補正**］（150）をご覧ください。
- 三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

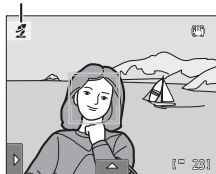
ステップ2　カメラを構え、構図を決める

1 カメラを両手でしっかりと構える

- レンズやフラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

- 縦位置で撮影するときは、フラッシュ発光部をレンズより上にしてください。

2 構図を決める

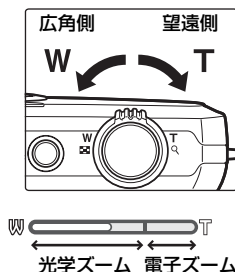
撮影モードアイコン

- カメラが撮影シーンを自動判別すると、撮影モードアイコンが切り換わります（□50）。
- カメラが人物の顔を認識したときは、顔に黄色い二重枠のAF（オートフォーカス）エリアが表示されます。
  最大12人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、カメラに最も近い顔に二重枠のAFエリアが表示され、AFエリア以外の顔に一重枠が表示されます。
- 人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AF エリアは表示されません。写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。

✔ （らくらくオート撮影）モードのご注意

- 撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、他の撮影モードに切り換えて撮影してください。
- 電子ズーム使用時は、撮影シーンの判別はになります。

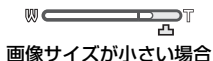
ズームを使う

ズームレバーを**T**方向または**W**方向に回すと、光学ズームが作動します。

- 被写体を大きく写したいとき：**T**方向に回します。
- 広い範囲を写したいとき：**W**方向に回します。
- 電源をON にしたときは、最も広角側になっています。
- ズーム操作をすると、液晶モニターにズームの量が表示されます。

電子ズームについて

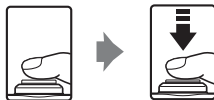
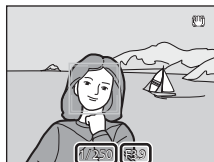
光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらにズームレバーを**T**方向に回し続けると、電子ズームが作動します。光学ズームの最大倍率の約4倍まで拡大できます。電子ズーム使用時は、AF エリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像モード（□39）や電子ズーム倍率によって、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、静止画の撮影で画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示も黄色に変わります。凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像モードで画質を劣化させずに静止画を撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

- セットアップメニュー（□142）の［**電子ズーム**］（□152）で、電子ズームが作動しない設定にできます。

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1　シャッターボタンを半押しする

- 半押しすると（□8）、カメラがピントを合わせます。

- 顔認識した場合：
  二重枠のAFエリアで囲まれた顔にピントが合います。ピントが合うと二重枠が緑色になります。
- 顔認識していない場合：
  撮影シーンに応じてカメラが選んだAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示（□12、50）が緑色に点灯します（最大9カ所）。

AF 表示

- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。ピントが合うとAF表示が緑色に点灯します。
- 半押しするとシャッタースピードと絞り値が表示されます。
- 半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- カメラが被写体ブレや手ブレを検知してシャッタースピードを速くしたときは、シャッタースピード表示が緑色に変わります（モーション検知（□51））。
- 半押しして、AFエリアまたはAF表示が赤色に点滅したときはピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2　シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

画像の記録についてのご注意

液晶モニターで「記録可能コマ数」が点滅しているときは、画像の記録中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**画像の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、画像が記録されないことや、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAF表示が緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、等距離にある別の被写体でピントを合わせる方法（□46）をお試しください。

顔認識機能についてのご注意

「顔認識機能についてのご注意」（□50）をご覧ください。

タッチシャッターについて

初期設定では、シャッターボタンを使わずに、画面上の被写体にタッチするだけでシャッターをきることができます（□41）。シャッターをきらずにタッチした被写体でピントと露出を合わせる［**タッチAF/AE**］に変更できます（□44）。

［目つぶり確認］画面について

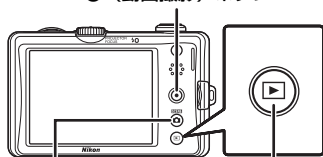
［**目つぶり検出設定**］を［**ON**］にすると、顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに［**目つぶり確認**］画面を表示します（□157）。

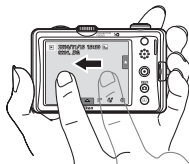
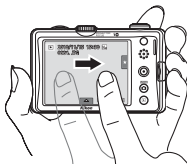
AF補助光とフラッシュについて

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押ししたときにAF補助光（□151）が点灯することや、全押ししたときにフラッシュ（□34）が発光することがあります。

ステップ4　撮影した画像を再生する/削除する

画像を再生する（再生モード）

▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- 画像をドラッグすると、前後の画像を表示できます。

前の画像を表示する　　次の画像を表示する

- 前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、◘ボタン、●（動画撮影）ボタン、またはシャッターボタンを押します。
- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INは表示されず、SDカードの画像が再生されます。

再生モードで使える機能

詳しくは、「いろいろな再生」（□79）または「画像の編集」（□108）をご覧ください。

▶ボタンによる電源ON

電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。

画像の再生について

- ズームレバーを **W**（▦）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります（□80）。
- カメラを縦に構えて撮影した画像（縦位置の画像）は、自動的に回転して表示されます（□15）。回転方向は、［**画像回転**］（□105）で変更できます。
  カメラ本体を回転すると、画像も回転して表示されます（□15）。
- 節電による待機状態で液晶モニターが消灯しているときは、以下のボタンを押すと、液晶モニターが再点灯します（□153）。
  →電源スイッチ、シャッターボタン、または▶ボタン

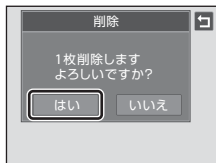
不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示して、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し（📖16）、🗑をタッチする

2 削除方法をタッチする

- ［**表示画像**］：表示している 1 コマ、または動画（📖128）を削除します。
- ［**削除画像選択**］：複数の画像を選んで削除します。→「削除画像選択画面の操作方法」
- ［**全画像**］：すべての画像を削除します。
- サムネイル表示（📖80）にして手順1の操作をした場合は、［**削除画像選択**］または［**全画像**］から選びます。

3 削除の確認画面で［はい］をタッチする

- 削除した画像は、もとに戻せません。
- 削除をやめるには、↩または［**いいえ**］をタッチします。

削除画像選択画面の操作方法

1 画像をタッチし、✔を表示する

- 選択を解除するには、もう一度画像をタッチして✔を非表示にします。
- 🔍をタッチするか、ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、🔍をタッチするか、ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと一覧表示に切り換わります。

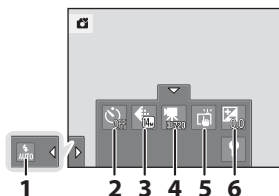
2 削除したい画像すべてに✔を表示し、OKをタッチして選択を決定する

- 確認画面が表示されます。画面の表示に従って操作してください。

画像削除についてのご注意

- 削除した画像はもとに戻せません。残しておきたい画像は、パソコンに転送して保存するようおすすめします。
- プロテクト設定した画像は、削除されません（📖99）。

基本的な撮影機能を使う

（らくらくオート撮影）モードでは、以下の機能を設定または変更できます。各アイコンは、現在の設定も示しています。

1	フラッシュ	34
2	セルフタイマー	37
3	画像モード	39
4	動画設定	125
5	タッチ撮影 タッチシャッター タッチAF/AE	 41 44
6	露出補正	47

また、リモコンを使ってシャッターをきれます（48）。

フラッシュモードの設定を変える

フラッシュの発光モード（フラッシュモード）を撮影状況に合わせて設定できます。

- フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約 0.3 ～ 3.5 m、望遠側で約 0.5～2.5 mです（ISO感度設定がオート時）。
- らくらくオート撮影モード（26）では、［**自動発光**］（初期設定）または［**発光禁止**］を選べます。［**自動発光**］にすると、自動判別されたシーンに合わせてカメラがフラッシュモードを設定します。
- （オート撮影）モード（52）、一部のシーンモード（61）またはベストフェイスモード（73）では、以下のフラッシュモードを選べます。

AUTO	**自動発光**
	暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減自動発光
	人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます（36）。
	発光禁止
	フラッシュは発光しません。
	強制発光
	被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。
	スローシンクロ
	自動発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景を写します。

フラッシュモードの設定方法

1 左のタブをタッチして設定アイコンを表示し（□16）、フラッシュモードアイコンをタッチする

2 設定したいフラッシュモードのアイコンをタッチする

- □をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。
- 設定後、設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

⊛（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

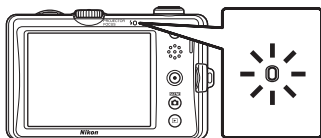
- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□142）の［**手ブレ補正**］（□150）をOFFにしてください。
- 暗い場所で撮影するときなど、撮影状況によってはノイズを低減する機能が作動することがあります。ノイズ低減の機能が作動すると、画像の記録が終了するまでに時間がかかることがあります。

フラッシュ使用時のご注意

フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込むことがあります。このようなときは、フラッシュを⊛（発光禁止）にして撮影することをおすすめします。

フラッシュランプについて

シャッターボタンの半押し時に、フラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

バッテリー残量が少なくなると、フラッシュの充電中は液晶モニターが消灯します。

フラッシュモードの設定について

フラッシュモードの初期設定は、撮影モードによって異なります。
- （らくらくオート撮影）：自動発光。
- （オート撮影）：自動発光。
- シーン：シーンによって異なります（62）。
- （ベストフェイス）：自動発光（目つぶり軽減 OFF時）、発光禁止に固定（目つぶり軽減 ON時）（76）。

フラッシュは、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（77）

（オート撮影）モードの場合、変更したフラッシュモード設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「**アドバンスト赤目軽減方式**」を採用しています。

フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減します。さらに、画像の記録時に赤目現象を検出すると、赤目部分を画像補正して記録します。

撮影する際は、以下にご注意ください。
- プリ発光するため、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。
- 画像の記録にかかる時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

セルフタイマーを使う

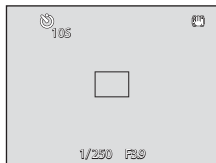
記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。タイマー時間は10秒と2秒から選べます。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（142）の［**手ブレ補正**］（150）を［**OFF**］にしてください。

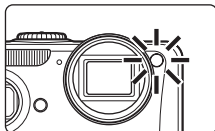
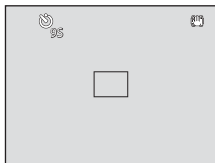
1 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し（16）、セルフタイマーアイコンをタッチする

2 ［**10s**］または［**2s**］をタッチする

- ［**10s**］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［**2s**］（2秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。
- 設定後、設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

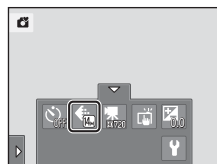
- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が液晶モニターに表示されます。作動中はセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

セルフタイマーについてのご注意

この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。➞「同時に設定できない機能」（77）

画像モード（画質/画像サイズ）を変える

記録する画像の大きさと、画質（圧縮率）の組み合わせを選びます。画像の用途や内蔵メモリー/SDカードの残量に合わせて設定してください。画像サイズの大きい画像モードほど、大きくプリントするのに適していますが、記録できるコマ数は少なくなります。

画像モード	画像サイズ（ピクセル）	内　容
4320×3240★	4320×3240	よりも精細な画像になります。圧縮率は約1/4です。
4320×3240（初期設定）	4320×3240	ファイルサイズと画質のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像モードです。圧縮率は約1/8です。
3264×2448	3264×2448	
2592×1944	2592×1944	
2048×1536	2048×1536	、、よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。圧縮率は約1/8です。
1024×768	1024×768	パソコンのモニターに表示するときに適しています。圧縮率は約1/8です。
640×480	640×480	電子メールへの添付や画面の縦横比が4:3のテレビへの表示に適しています。圧縮率は約1/8です。
3968×2232	3968×2232	縦横比が16：9の画像を撮影できます。圧縮率は約1/8です。

1 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し（16）、画像モードアイコンをタッチする

2 設定したい画像モードのアイコンをタッチする

- をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。
- 設定後、設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

画像モードの設定について

- （らくらくオート撮影）モード以外の撮影モードでも、設定を変更できます。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます。
- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（77）

記録可能コマ数

内蔵メモリーや4 GBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像モード	内蔵メモリー（約79 MB）	SDカード（4 GB）	プリント時の大きさ※
4320×3240★	11コマ	約550コマ	約36×27 cm
4320×3240	23コマ	約1100コマ	約36×27 cm
3264×2448	40コマ	約1910コマ	約28×21 cm
2592×1944	62コマ	約2940コマ	約22×16 cm
2048×1536	97コマ	約4640コマ	約17×13 cm
1024×768	316コマ	約15000コマ	約9×7 cm
640×480	563コマ	約24100コマ	約5×4 cm
3968×2232	36コマ	約1720コマ	約34×19 cm

※ 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

- 撮影画面では、撮影できる残りのコマ数が 50 コマ以下になると、記録可能コマ数が表示されます（26）。
- 再生画面の画像の番号/全画像数の表示は、記録したコマ数が10,000コマ以上になると、10,000コマ目以降は「9999」となります。

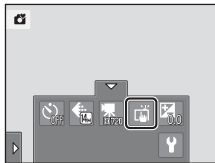
画面にタッチしてシャッターをきる（タッチシャッター）

画面にタッチするだけで、シャッターがきれます。

- 初期設定では、［**タッチシャッター**］に設定されています。手順 3 に進んでください。

---

1 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し（📖16）、タッチ撮影アイコンをタッチする

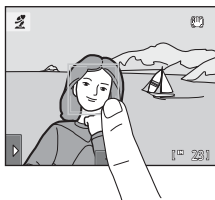
---

2 （タッチシャッター）をタッチする

- をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。
- 設定後、設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

---

3 ピントを合わせたい被写体をタッチして撮影する

- 撮影モードが （らくらくオート撮影）の場合、顔認識しているときは、枠で囲まれた顔をタッチします。タッチした顔にカメラがピントと露出を合わせます。

  顔認識していないときは、タッチしたエリアでカメラがピントを合わせます。
- 液晶モニターにタッチするときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがありますのでご注意ください。
- 電子ズーム使用時は、画面中央の被写体にピントが合います。
- タッチシャッターに設定していても、シャッターボタンを押して撮影できます。
- 液晶モニターにタッチして［ ］が表示されたときは、シャッターがきれません。［ ］の内側または顔認識して表示される枠をタッチしてください。

タッチシャッターについてのご注意

- ［**連写**］（□58）の［**連写**］または［**BSS**］を使って撮影するときや、シーンモード（□61）の［**スポーツ**］または［**ミュージアム**］で撮影するときは、シャッターボタンを押して撮影してください。タッチシャッターを使うと1コマずつの撮影になります。
- 誤って画面に触れてシャッターをきらないようにご注意ください。（らくらくオート撮影）モード、（オート撮影）モード、一部のシーンモードでは、タッチ撮影の設定を［**タッチAF/AE**］に切り換えると、画面にタッチしてもシャッターがきれないようにできます（□44）。
- オートフォーカスが苦手な被写体を撮影すると、ピントが合わないことがあります（□31）。
- セルフタイマー（□37）を設定してから、画面の被写体をタッチすると、ピントが固定され、10秒または2秒後にシャッターがきれます。
- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□77）

タッチシャッターが使える撮影モードについて

（らくらくオート撮影）モード以外でも、タッチシャッターを使えます。撮影モードによって、タッチシャッターの動作は以下のように異なります。

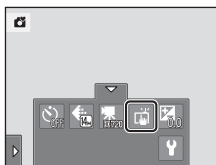
撮影モード	タッチシャッターの動作
（らくらくオート撮影）モード（□26）	• 顔認識しているときは、枠で囲まれた顔をタッチしてください。タッチした顔にカメラがピントと露出を合わせます。 • 顔認識していないときは、タッチしたエリアでカメラがピントを合わせます。
（オート撮影）モード（□52）、シーンモード（□61）の［スポーツ］／［パーティー］／［ビーチ］/［雪］/［クローズアップ］/［料理］／［ミュージアム］／［モノクロコピー］／［逆光］	ピントを合わせたい被写体にタッチしてください。タッチしたエリアでカメラがピントと露出を合わせます。複数の顔を認識したときは、一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔にカメラがピントと露出を合わせます。
シーンモード（□61）の［ポートレート］／［夜景ポートレート］	顔認識して表示される枠以外は選べません。複数の顔を認識したときは、一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔にカメラがピントと露出を合わせます。
シーンモード（□61）の［風景］／［夕焼け］／［トワイライト］／［夜景］／［打ち上げ花火］／［パノラマアシスト］	シャッターボタンを押して撮影するときと同じAFエリアで、ピントと露出を合わせます。詳しくは、「シーンを選んで撮影する（シーンモードの種類と特徴）」（□64）をご覧ください。
ベストフェイスモード（□73）	タッチシャッターは使えません。

タッチ撮影の設定について

（オート撮影）モードの場合、タッチ撮影の設定は電源をOFFにしても記憶されます。

画面にタッチしてピントを合わせる（タッチAF/AE）

タッチ撮影の設定を［**タッチシャッター**］（初期設定）から［**タッチAF/AE**］に切り換えられます。オートフォーカスでピント合わせをするAFエリアを、画面にタッチして選べます。シャッターボタンを押すと、選んだエリアでピントと露出が合いシャッターがきれます。

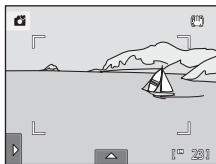
1 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し（□16）、タッチ撮影アイコンをタッチする

2 （タッチAF/AE）をタッチする

- をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。
- 設定後、設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

3 ピントを合わせたい被写体をタッチする

- （らくらくオート撮影）モードでは、顔認識しているときは、枠で囲まれた顔以外はタッチできません。複数の顔を認識したときは、一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔にAFエリアを移動できます。
  顔認識していないときは、タッチしたエリアでカメラがピントを合わせます。

- タッチした場所には、〖 〗または二重枠のAFエリアが表示されます。
- 電子ズーム使用時は、AFエリアは選べません。
- AFエリアの選択を解除するときは、画面左側のをタッチします。
- AFエリアに選べない場所をタッチしたときは、液晶モニターに［ ］が表示されます。［ ］で囲まれた範囲内で、タッチしてください。

簡単な撮影と再生―（らくらくオート撮影）モードを使う

4 シャッターボタンを押して撮影する

- シャッターボタンを半押しするとピントと露出が固定され、全押しするとシャッターがきれます。

タッチAF/AEについてのご注意

オートフォーカスが苦手な被写体の撮影では、ピント合わせができないことがあります（□31）。

タッチAF/AEが使える撮影モードについて

（らくらくオート撮影）モード以外でも、タッチAF/AEを使えます。撮影モードによって、タッチAF/AEの動作は以下のように異なります。

撮影モード	タッチAF/AEの動作
（らくらくオート撮影）モード（□26）	• 顔認識しているときは、枠で囲まれた顔以外は選べません。複数の顔を認識したときは、一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔に AF エリアを移動できます。 • 顔認識していないときは、タッチしたエリアでカメラがピントを合わせます。
（オート撮影）モード（□52）、シーンモード（□61）の［スポーツ］/［パーティー］/［ビーチ］/［雪］/［クローズアップ］/［料理］/［ミュージアム］/［モノクロコピー］/［逆光］	タッチしたエリアでカメラがピントと露出を合わせます。
シーンモード（□61）の［ポートレート］/［夜景ポートレート］、ベストフェイスモード（□73）	顔認識して表示される枠以外は選べません。複数の顔を認識したときは、一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔にAFエリアを移動できます。
シーンモード（□61）の［風景］/［夕焼け］/［トワイライト］/［夜景］/［打ち上げ花火］/［パノラマアシスト］	タッチAF/AEは使えません。

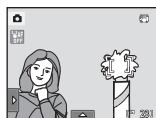
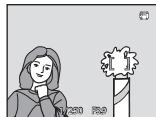
タッチ撮影の設定について

（オート撮影）モードの場合、タッチ撮影の設定は電源をOFFにしても記憶されます。

オートフォーカスが苦手な被写体を撮影するときは

オートフォーカスが苦手な被写体（31）を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、以下の方法をお試しください。

1 （オート撮影）モードに切り換えて（52）、タッチ撮影の設定を［**タッチAF/AE**］にする

2 ピントを合わせたい被写体と等距離にある別の被写体にタッチする

3 シャッターボタンを半押しする
- ピントが合い、AFエリアが緑色に点灯します。
- 露出は、半押ししてピント合わせした被写体に合います。

4 半押ししたまま構図を変える
- 半押ししている間は被写体とカメラの距離を変えないでください。

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

露出補正で明るさを変える

露出補正を設定して撮影すると、画像全体の明るさを明るく、または暗く調整できます。

1 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し(16)、露出補正アイコンをタッチする

2 スライダーをドラッグして補正値を変更する

- 被写体を明るくしたいとき：補正値を「+」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：補正値を「−」側に設定します。
- をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。

3 OKをタッチする

- 設定後、設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。
- 露出補正を解除するときは、手順1に戻って補正値を［**0**］にしてOKをタッチしてください。

露出補正の設定について

（オート撮影）モードの場合、露出補正の設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

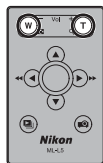
リモコンでシャッターをきる

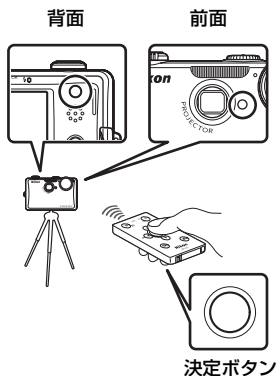
付属のリモコンML-L5（□6）を使ってカメラのシャッターをきれます。記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときに便利です。

- セルフタイマーとの併用もできます。
- リモコンを使って撮影するときは三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□142）の［**手ブレ補正**］（□150）を［**OFF**］にしてください。

1 三脚などでカメラを固定する

2 構図を決める

- セルフタイマーを使うときは、「セルフタイマーを使う」（□37）の手順1と2でセルフタイマーを設定します。
- リモコンの**T**または**W**ボタンを押すとズーム操作できます。被写体を大きく写したいときは**T**ボタンを、広い範囲を写したいときは**W**ボタンを押します。
- ベストフェイスモード（□73）で［**笑顔自動シャッター**］が［**ON**］の場合、カメラが人物の顔を認識しているときは、リモコンを使えません。

3 リモコンの送信部をカメラ前面または背面のリモコン受光部(□4、5）に向けて決定ボタンを押す

- シャッターがきれ、画像が記録されます。
- 約5 m以内の距離で、決定ボタンを押してください。
- セルフタイマーを設定したときは、ピントと露出が合い、セルフタイマーが作動します。シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度決定ボタンを押します。

撮影モードを選ぶ

以下の撮影モードを選べます。

	らくらくオート撮影	□26
	構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動的に判別し、簡単にシーンに合った撮影ができます。	
	オート撮影	□52
	フラッシュモード、マクロモード（接写）などを設定して撮影できます。連写や、ピントを合わせるAFエリアが被写体を追尾する「ターゲット追尾」も設定できます。	
SCENE	シーン	□61
	撮影シーンを選ぶだけで、そのシーンに合った設定で撮影ができます。	
	ベストフェイス	□73
	顔認識した人物の笑顔を検出して、自動でシャッターをきることができます。美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにできます。	

1 撮影時に撮影モードボタンを押す

- 撮影モードメニューが表示されます。

2 設定したい撮影モードのアイコンをタッチする

- 選んだ撮影モードの撮影画面になります。
- SCENE（シーン）をタッチしたときは、設定したいシーンのアイコンをタッチします（□61）。
- 撮影モードを切り換えずに撮影画面に戻るには、撮影モードボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

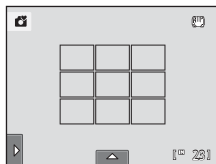
（らくらくオート撮影）モードについて

自動判別するシーンについて

カメラを被写体に向けると、以下の撮影シーンに合わせた設定に自動的に切り換わります。

- オート撮影（一般的な撮影）
- ポートレート（□64）
- 風景（□64）
- 夜景 （□67）
- 夜景ポートレート（□65）
- 逆光（□69）
- クローズアップ（□67）

らくらくオート撮影モードでのピント合わせについて

撮影モードアイコンがやのときは、シャッターボタンを半押しすると、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
半押しするまで、AFエリアは表示されません。
半押しすると、ピントが合ったAFエリアが画面に表示されます（最大9カ所）。

顔認識撮影について

人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。
以下の場合は、顔認識機能が働きます。

- （らくらくオート撮影）モード（□26）のとき
- （オート撮影）モード（□52）のとき
- シーンモードが［**ポートレート**］（□64）または［**夜景ポートレート**］（□65）のとき
- ベストフェイスモード（□73）のとき

顔認識機能についてのご注意

- 顔の向きなどの撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□31）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、等距離にある別の被写体でピントを合わせる方法（□46）をお試しください。

モーション検知について

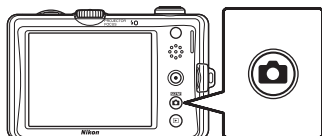
（らくらくオート撮影）モードや（オート撮影）モードなどでは、カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度が上がり、シャッタースピードが速くなります。このようなときは、シャッタースピード表示が緑色に変わります。

- モーション検知が作動しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にブレているときや暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

（オート撮影）モードで撮影する

フラッシュモード、マクロモード（接写）などを設定して撮影できます。連写の設定や、ピントを合わせるAFエリアが被写体を追尾する「ターゲット追尾」も設定できます。

1 撮影時にボタンを押す

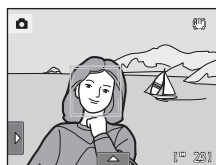
- 撮影モードメニューが表示されます。

2 をタッチする

- （オート撮影）モードになります。

3 左のタブまたは下のタブをタッチして設定アイコンを表示し（16）、設定を確認または変更する

- 設定を変更するときは、設定アイコンをタッチします。
- 設定について詳しくは「（オート撮影）モードの設定を変える」（53）をご覧ください。

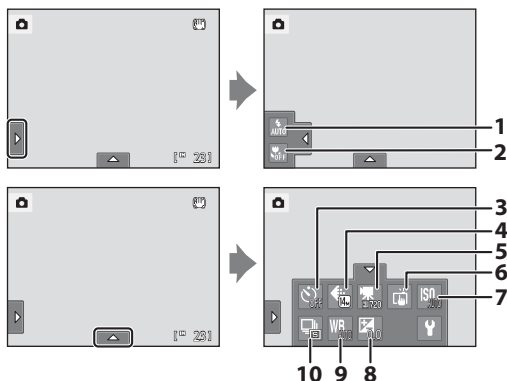
4 構図を決めて撮影する

- カメラが人物の顔を認識したときは、顔に黄色い二重枠のAF（オートフォーカス）エリアが表示されます。シャッターボタンを半押しすると二重枠のAFエリアでピントが合います（28、50）。
- 人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、シャッターボタンを半押しすると、9つあるAFエリアのうち、もっとも手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います（50）。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。
- 初期設定では、シャッターボタンを使わずに、画面上の被写体にタッチするだけでシャッターをきることができます（41）。シャッターをきらずにタッチした被写体でピントと露出を合わせる[**タッチAF/AE**]に変更できます（44）。

関連ページ

- オートフォーカスが苦手な被写体→31
- 顔認識機能についてのご注意→50

（オート撮影）モードの設定を変える

（オート撮影）モードでは、タブをタッチして設定アイコンを表示すると、以下の機能を設定または変更できます。

- 各アイコンは、現在の設定も示しています。
- 設定したい項目のアイコンをタッチすると、その項目の設定画面になります。
- 設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

1	フラッシュ※ 34		6	タッチ撮影※ タッチシャッター .... 41 タッチAF/AE .... 44 ターゲット追尾 55
2	マクロ※ 54		7	ISO ISO感度設定※ 57
3	セルフタイマー 37		8	露出補正※ 47
4	画像モード※ 39		9	WB ホワイトバランス※ 59
5	動画設定※ 125		10	連写※ 58

※ （オート撮影）モードの場合、設定は電源をOFFにしても記憶されます。

同時に設定できない機能

撮影時の設定には、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。→「同時に設定できない機能」（77）

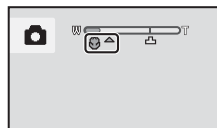
マクロ（接写の設定をする）

（オート撮影）に設定 ➔ 左のタブをタッチする ➔ マクロ

最短約3 cmまで被写体に近づいて撮影できます。ただし、フラッシュ撮影時は、撮影距離が30 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

1 ONをタッチする

2 ズームレバーを操作して構図を決める

- 最短撮影距離はズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（△ マークより広角側）では、レンズ前約3 cmまでの被写体にピントを合わせられます。

マクロについてのご注意

この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（77）

オートフォーカスについて

静止画を撮影する場合、マクロモードにすると、シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。常にピントを合わせる動作音がします。

マクロモードの設定について

- （らくらくオート撮影）モード：に判別されるとマクロモードになります。
- シーンモード：シーンによって異なります（62）。［**クローズアップ**］または［**料理**］に設定するとマクロモードになります。
- （ベストフェイス）モード：マクロモードは使えません。

ターゲット追尾（動く被写体にピントを合わせて撮影する）

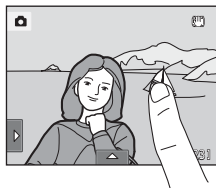
（オート撮影）に設定 ➔ 下のタブをタッチする ➔ タッチ撮影

（オート撮影）モード（52）では、タッチ撮影の設定を［**タッチシャッター**］（初期設定）から［**ターゲット追尾**］に切り換えられます。動きのある被写体を撮影するときに使います。ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。

1 （ターゲット追尾）をタッチする

- 撮影モードが、（オート撮影）モード以外のときは、（ターゲット追尾）を使えません。

2 被写体を登録する

- ピントを合わせたい被写体に画面上でタッチします。
  - 被写体が登録されます。
  - 枠が赤色で表示されたときは、被写体にピントを合わせられません。構図を変えて、もう一度被写体を登録してください。
- 被写体が登録できない場所をタッチしたときは、液晶モニターに［　］が表示されます。［　］で囲まれた範囲内で、タッチしてください。
- 被写体が登録されると、黄色いAFエリア表示で囲まれ、ターゲット追尾が始まります。
- ターゲットを変えたいときは、もう一度ピントを合わせたい被写体をタッチしてください。
- 被写体の登録を解除するときは、画面左側のを タッチします。
- カメラがターゲットを見失ってAF エリア表示が消えたときは、もう一度被写体を登録してください。

3 シャッターボタンを押して撮影する

- シャッターボタンを半押ししてAF エリアでピントが合うと、AFエリア表示が緑色になり、ピントが固定されます。
- AFエリア表示が点滅したときは、被写体にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- AFエリアが表示されていない状態でシャッターボタンを半押しすると、9つあるAFエリアのうち、もっとも手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います（□50）。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

ターゲット追尾についてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- ターゲット追尾中は、常にピントを合わせる動作音がします。
- ズーム位置や撮影時の設定（□53）は、被写体を登録する前に設定してください。被写体を登録した後に設定を変更すると、被写体の登録が解除されます。
- 被写体の動きが速いときや手ブレが大きいとき、類似した被写体がある場合など、撮影条件によっては、被写体をターゲットに登録できないことや追尾できないこと、または別の被写体を追尾することがあります。被写体の大きさや明るさなどによっても、適切にターゲット追尾できないことがあります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□31）の撮影では、AFエリア表示が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。このようなときは、等距離にある別の被写体でピントを合わせる方法（□46）をお試しください。
- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□77）

タッチ撮影の設定について

ターゲット追尾での被写体の登録は、電源をOFFにすると解除されます。

ISO ISO感度設定

（オート撮影）に設定 ➔ 下のタブをタッチする ➔ ISO ISO感度設定

ISO感度を高くすると、より少ない光量で撮影できます。
ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体の動きによるブレを軽減しやすくなります。

- ISO感度を高くすると、暗い被写体の撮影、フラッシュを使わない撮影、望遠側での撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

AUTO	**オート（初期設定）**
	明るい場所ではISO 80になり、暗い場所では自動的にISO 800までISO感度が高くなります。
A ISO	**感度制限オート**
	カメラが自動的にISO感度を変更するときの範囲を［**ISO 80-200**］、［**ISO 80-400**］から選べます。選んだ範囲の上限値以上にISO感度は上がりません。ISO感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。
80、100、200、400、800、1600、3200、6400	
	ISO感度を選んだ値に固定します。

ISO感度設定についてのご注意

- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（77）
- ISO感度設定を［**オート**］以外にすると、モーション検知（51）は作動しません。

ISO感度［3200］、［6400］についてのご注意

- ［**ISO感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にして撮影するときは、選べる［**画像モード**］は3M［**2048×1536**］、PC［**1024×768**］、VGA［**640×480**］に制限されます。
- ［**ISO 感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、撮影時の画像モード設定アイコンが赤色になります。

連写

（オート撮影）に設定 ➔ 下のタブをタッチする ➔ 連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。

単写（初期設定）

1コマずつ撮影します。

連写

シャッターボタンを全押ししている間､約0.9コマ/秒で最大4コマまで連写できます（画像モードが［**4320×3240**］のとき）。

BSS（ベストショットセレクター）

暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。
シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け（最大10コマ）、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

マルチ連写

シャッターボタンを1回全押しすると約7コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像として記録します。

- 記録される画像モードは （画像サイズ：2560 × 1920 ピクセル）に固定されます。
- 電子ズームは使えません。

連写についてのご注意

- ［**連写**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］で撮影するときは、フラッシュは使えません。ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。
- 画像モード、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（77）

BSSについてのご注意

［**BSS**］は静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

マルチ連写についてのご注意

マルチ連写の撮影では、液晶モニターにスミア（177）が発生すると、記録される画像にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

WB ホワイトバランス（色合いの調整）

（オート撮影）に設定 ➔ 下のタブをタッチする ➔ WB ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

AUTO オート（初期設定）

カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。

PRE プリセットマニュアル

特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（□60）をご覧ください。

晴天

晴天の屋外での撮影に適しています。

電球

白熱電球の下での撮影に適しています。

蛍光灯

白色蛍光灯の下での撮影に適しています。

曇天

曇り空の屋外での撮影に適しています。

フラッシュ

フラッシュを使う撮影に適しています。

ホワイトバランスについてのご注意

［**オート**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを（発光禁止）に設定してください（□34）。

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明の下で撮影するときなど、［**オート**］や［**電球**］などのホワイトバランス設定では望ましい結果が得られない場合に使います（赤みがかった照明下で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せたいときなど）。
以下の手順で、撮影する照明下のホワイトバランス値を測定して、撮影します。

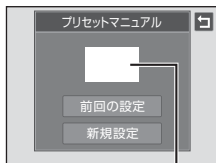
1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し（□16）、WBをタッチする

3 PREをタッチする

- レンズが測定用のズーム位置になります。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収める

- 前回測定したホワイトバランス値を使いたいときは、［**前回の設定**］をタッチします。再測定せずに、ホワイトバランスが前回の値に設定されます。

5 ［**新規設定**］をタッチして、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます（画像は記録されません）。

プリセットマニュアルについてのご注意

フラッシュ発光時のホワイトバランス値は測定できません。フラッシュ撮影時は、［**ホワイトバランス**］を［**オート**］または［**フラッシュ**］に設定してください。

シーンに合わせて撮影する（シーンモード）

以下の撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った設定で撮影ができます。

ポートレート	風景	スポーツ	夜景ポートレート	パーティー
ビーチ	雪	夕焼け	トワイライト	夜景
クローズアップ	料理	ミュージアム	打ち上げ花火	モノクロコピー
逆光	パノラマアシスト			

シーンモードの設定方法

1 撮影時に ボタンを押して撮影モードメニューを表示し、 をタッチする

- シーンの選択画面になります。

2 設定したいシーンのアイコンをタッチする

- 選んだシーンの撮影画面になります。
- シーンモードの種類と特徴→64

3 構図を決めて撮影する

- シーンによっては、シーンエフェクト調整スライダーでシーンの効果を調整できます（63）。

各シーンの説明を見るには

シーンを選ぶ画面（手順2）で ? をタッチすると、［**ヘルプ選択**］画面になります。シーンのアイコンをタッチすると、それぞれのシーンの特徴を表示できます。 をタッチすると、［**ヘルプ選択**］画面に戻ります。

- ［**ヘルプ選択**］画面で をタッチすると、手順2の画面に戻ります。

シーンモードの設定について

シーンモードでは、シーンを選ぶと、撮影時の設定が以下の内容に切り換わります。

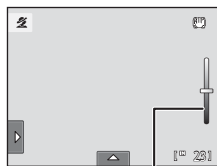
	フラッシュ（34）	マクロ（54）	セルフタイマー（37）	タッチ撮影（41、44）	露出補正（47）
	※1	OFF	OFF※1	※1、4	0※1
		OFF	OFF※1	※5	0※1
		OFF	OFF	※1	0※1
	※2	OFF	OFF※1	※1、4	0※1
	※1、3	OFF	OFF※1	※1	0※1
	※1	OFF	OFF※1	※1	0※1
	※1	OFF	OFF※1	※1	0※1
	※1	OFF	OFF※1	※5	0※1
		OFF	OFF※1	※5	0※1
		OFF	OFF※1	※5	0※1
	※1	ON	OFF※1	※1	0※1
		ON	OFF※1	※1	0※1
		OFF※1	OFF※1	※1	0※1
		OFF	OFF	※5	0
	※1	OFF※1	OFF※1	※1	0※1
		OFF	OFF※1	※1	0※1
	※1	OFF※1	OFF※1	※5	0※1

※1 タブをタッチして設定アイコンを表示すると、機能を設定または変更できます。
※2 赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。
※3 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。
※4 顔認識して表示される枠以外は選べません。
※5 シャッターボタンを押して撮影するときと同じ AF エリアで、ピントと露出を合わせます。

画像モード（画質/画像サイズ）の設定について

設定は、シーンモード以外の撮影モードと連動しています。シーンモードでも、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチすると設定できます（39）。

シーンエフェクトの調整

以下のシーンモードでは、シーンエフェクト調整スライダーが表示されます。シーンエフェクト調整スライダーをタッチまたはドラッグして、シーンの効果を調整できます。

シーンエフェクト
調整スライダー

シーンモード	調整
ポートレート、夜景ポートレート、ビーチ、雪、夜景、逆光	明るく ↔ 暗く
料理	赤く ↔ 青く
風景、クローズアップ	鮮やかさを増す ↔ 鮮やかさを減らす
夕焼け、トワイライト	赤味強く ↔ 青味強く

シーンを選んで撮影する（シーンモードの種類と特徴）

ポートレート

人物のポートレート撮影に使います。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAF エリア表示で囲まれます（顔認識撮影について→ 50）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔に二重枠の AF エリアが表示され、AF エリア以外の顔に一重枠が表示されます。一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔に AF エリアを変更できます（41、44）。
- 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（74）。
- 顔を認識しないときは、シャッターボタンを半押しすると、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。
- フラッシュの初期設定は（赤目軽減自動発光）です。
- シーンエフェクト調整スライダーで明るさを調整できます（63）。

風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（30）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- フラッシュは使えません。
- AF 補助光（151）は点灯しません。
- シーンエフェクト調整スライダーで色の鮮やかさを調整できます（63）。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（150)を［**OFF**］にしてください。

🏃 スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（📖41）またはタッチ AF/AE（📖44）で、ピントが合うエリアを変えられます。シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- シャッターボタンを全押ししている間、約 0.9 コマ / 秒で最大 4 コマまで連写できます（画像モードが 14M［**4320 × 3240**］のとき）。
- ピントと露出、ホワイトバランスは 1 コマ目を撮影した条件に固定されます。
- 画像モード、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- タッチシャッター（📖41）で撮影すると、1 コマずつの撮影になります。
- フラッシュは使えません。
- AF 補助光（📖151）は点灯しません。

夜景ポートレート

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。背景の雰囲気を活かしながら人物をフラッシュ撮影します。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠の AF エリア表示で囲まれます（顔認識撮影について→📖50）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔に二重枠の AF エリアが表示され、AF エリア以外の顔に一重枠が表示されます。一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔に AF エリアを変更できます（📖41、44）。
- 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（📖74）。
- 顔を認識しないときは、シャッターボタンを半押しすると、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。
- フラッシュの設定は赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。
- シーンエフェクト調整スライダーで明るさを調整できます（📖63）。

パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（41）またはタッチ AF/AE（44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- フラッシュの初期設定は（赤目軽減自動発光）です。赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。暗い場所では、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（150) を［**OFF**］にしてください。

ビーチ

晴天の海や砂浜を明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（41）またはタッチ AF/AE（44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- シーンエフェクト調整スライダーで明るさを調整できます（63）。

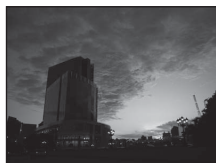
雪

雪景色を明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（41）またはタッチ AF/AE（44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- シーンエフェクト調整スライダーで明るさを調整できます（63）。

夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- フラッシュの初期設定は（発光禁止）です。
- シーンエフェクト調整スライダーで色味を調整できます（63）。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（150)を［OFF］にしてください。

トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□30）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- フラッシュは使えません。
- AF 補助光（□151）は点灯しません。
- シーンエフェクト調整スライダーで色味を調整できます（□63）。

夜景

夜景の撮影に使います。スローシャッターで夜景の雰囲気を表現します。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□30）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- フラッシュは使えません。
- AF 補助光（□151）は点灯しません。
- シーンエフェクト調整スライダーで明るさを調整できます（□63）。

クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- マクロモード（□54）になり、最短距離で撮影可能な位置まで自動的にズームが移動します。
- 最短撮影距離はズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（△マークより広角側）では、レンズ前約3 cmまでの被写体にピントを合わせられます。
- フラッシュ撮影時は、撮影距離が 30 cm 未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。
- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（□41）またはタッチ AF/AE（□44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（□150）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- シーンエフェクト調整スライダーで色の鮮やかさを調整できます（□63）。

料理

料理の撮影に使います。

- マクロモード（54）になり、最短距離で撮影可能な位置まで自動的にズームが移動します。
- 最短撮影距離はズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（マークより広角側）では、レンズ前約 3 cm までの被写体にピントを合わせられます。
- フラッシュは使えません。
- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（41）またはタッチ AF/AE（44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、[**手ブレ補正**]（150）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- シーンエフェクト調整スライダーで、照明によって被写体の色が変わる影響を調整できます（63）。料理モードのシーンエフェクトの調整は電源を OFF にしても記憶されます。

ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

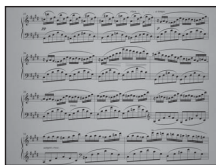
- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（41）またはタッチ AF/AE（44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- BSS（ベストショットセレクター）（58）を使って撮影できます。
- タッチシャッター（41）で撮影すると、BSS は作動しません。
- 手ブレしやすいため、[**手ブレ補正**]（150）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- フラッシュは使えません。
- AF 補助光（151）は点灯しません。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、[**手ブレ補正**]（150)を[**OFF**]にしてください。

打ち上げ花火

スローシャッターで、打ち上げ花火を撮影します。
- 遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常にAF表示（□30）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- フラッシュは使えません。
- AF補助光（□151）は点灯しません。

モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。
- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（□41）またはタッチAF/AE（□44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- 近くのものを撮影するときは、マクロモード（□54）を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。
- フラッシュの初期設定は（発光禁止）です。

逆光

逆光状態での撮影に使います。フラッシュが常に発光し、人物が影にならずに撮影できます。
- 画面中央でピントを合わせます。タッチシャッター（□41）またはタッチAF/AE（□44）で、ピントが合うエリアを変えられます。
- フラッシュの設定は（強制発光）に固定されます。
- シーンエフェクト調整スライダーで明るさを調整できます（□63）。

⌘ パノラマアシスト

撮影した複数の画像をつなげて、パノラマ写真に合成したいときに使います。撮影した画像は、付属のソフトウェア「Panorama Maker 5」を使ってパソコンでパノラマ写真に合成します。詳しくは「パノラマアシストを使った撮影方法」（□71）をご覧ください。

- フラッシュの初期設定は ⊛（発光禁止）です。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（142）の［**手ブレ補正**］（150）をOFFにしてください。

1 撮影時に ボタンを押して撮影モードメニューを表示し、をタッチする

- シーンの選択画面になります。

2 ［パノラマアシスト］をタッチする（61）

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示すマークが表示されます。

3 パノラマ方向をタッチする

- 右方向につなげるときは 、左方向は 、上方向は、下方向はをタッチします。
- もう一度、パノラマ方向のアイコンをタッチすると、方向を選び直せます。
- 撮影時の設定を変えるときは（62)、ここで設定してください。

4 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約 1/3 の部分に半透明で表示されます。

5 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

6 必要な画像を撮影し終わったら、X をタッチする

- 手順3の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- 撮影時の設定（□62）は、1コマ目のシャッターをきる前に設定してください。1コマ目を撮影した後は変更できません。1コマ目を撮影した後は、ズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（□153）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、パノラマ写真を構成するすべての画像を、1コマ目と同じ露出、ホワイトバランスおよびピントで撮影します。
1コマ目を撮影すると、露出、ホワイトバランスとピントをロック（固定）したことを示すAE/AF-Lが画面に表示されます。

Panorama Maker 5について

Panorama Maker 5 は、付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってパソコンにインストールできます。
撮影した画像をパソコンに転送して（□131）、Panorama Maker 5 でパノラマ写真に合成してください（□135）。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□181

笑顔を撮影する（ベストフェイスモード）

初期設定では、顔認識した人物の笑顔を検出して自動でシャッターをきることができます（笑顔自動シャッター）。美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにできます。

1 撮影時に 📷 ボタンを押して撮影モードメニューを表示し、☺ をタッチする

- ベストフェイスモードになります。

2 構図を決める

- カメラを被写体に向けます。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が一瞬緑色になりピントが固定されます。
- 最大 3 人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。一重枠で囲まれた顔をタッチすると、その顔にAFエリアを変更できます。

3 自動的にシャッターがきれる

- ［**笑顔自動シャッター**］（📖76）により、カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- シャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

4 撮影を終了する

- 笑顔検出による自動撮影を終了するときは、電源をOFFにするか、［**笑顔自動シャッター**］を［**OFF**］にするか、📷ボタンを押して他の撮影モードに切り換えてください。

ベストフェイスモードについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- セルフタイマーは使えません。
- タッチシャッターは使えません。
- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 「顔認識機能についてのご注意」→□50

美肌機能についてのご注意

- 美肌機能を使って撮影する場合は、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。
- 撮影条件によっては、撮影時の画面でカメラが顔を認識していても、美肌の効果が表れないことや、顔以外の部分が画像処理されることがあります。望ましい効果が得られない場合は、［**美肌効果**］を［**OFF**］にして撮影し直してください。
- シーンモードのポートレート、夜景ポートレートでは、美肌効果の度合いは設定できません。
- 撮影後にも、記録した画像にメイクアップ効果で美肌などの編集ができます（□119）。

リモコン使用時のご注意

ベストフェイスモードで［**笑顔自動シャッター**］が［**ON**］の場合、カメラが人物の顔を認識しているときは、リモコンを使えません。

セルフタイマーランプについて

笑顔自動シャッターでは、カメラが顔を認識すると点滅し、シャッターがきれた直後は速く点滅します。

手動でシャッターをきるには

シャッターボタンを押してもシャッターがきれます。顔認識していないときは、画面中央の被写体にピントが合います。

笑顔自動シャッター使用時の節電機能について

［**笑顔自動シャッター**］が［**ON**］のときは、カメラを操作しないまま以下の状態が続くと、オートパワーオフ（□153）が作動して、電源がOFFになります。

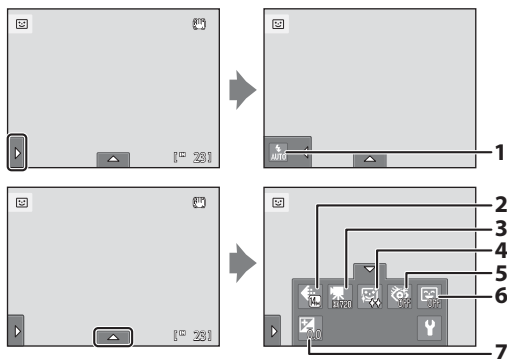
- カメラが顔を認識しない。
- カメラが顔を認識していても、笑顔を検出できない。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→□31

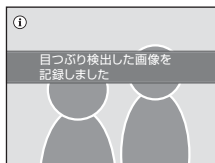
ベストフェイスモードの設定を変える

ベストフェイスモードでは、タブをタッチして設定アイコンを表示すると、以下の機能を設定または変更できます。

- 各アイコンは、現在の設定も示しています。
- 設定したい項目のアイコンをタッチすると、その項目の設定画面になります。
- 設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

1	**フラッシュ**
	ベストフェイスモードで撮影するときのフラッシュ（34）を設定できます。
2	**画像モード**
	［**画像モード**］（39）を設定できます。 画像モードの設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画像モードの設定になります。
3	**動画設定**
	動画撮影時の動画の種類を選びます（123、125）。
4	**美肌効果**
	美肌の効果を設定します。シャッターがきれると、人物の顔をカメラが検出し（最大3人）、画像処理で顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します。効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］（初期設定）、［**弱め**］から選べます。［**OFF**］を選ぶと、美肌機能はOFFになります。 • 撮影画面の被写体では、効果の度合いは確認できません。撮影後に画像を再生して確認してください。

5	目つぶり軽減

［**ON**］にすると、撮影のたびに2回シャッターをきり、人物が目をつぶっていない画像を優先して1コマだけ記録します。

- 目をつぶっている可能性のある画像を記録したときは、右のメッセージが数秒間表示されます。
- ［**ON**］にすると、フラッシュは使えません。
- 初期設定は［**OFF**］です。

6	笑顔自動シャッター

- ［**ON**］（初期設定）：顔認識した人物の笑顔を検出するたびに、カメラが自動でシャッターをきります。
- ［**OFF**］：笑顔検出による自動シャッターを OFF にして、シャッターボタンのみでシャッターをきります。

7	露出補正

ベストフェイスモードで撮影するときの［**露出補正**］（47）を設定できます。

ベストフェイスモードの設定について

この機能は、他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（77）

同時に設定できない機能

撮影時の設定には、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。

制限される機能	設定	内容
フラッシュ	連写（□58）	［**連写**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	目つぶり軽減（□76）	［**目つぶり軽減**］が［**ON**］のときは、フラッシュは使えません。
セルフタイマー	ターゲット追尾（□55）	タッチ撮影を［**ターゲット追尾**］にすると、セルフタイマーは使えません。
画像モード	連写（□58）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、［**画像モード**］は5M（画像サイズ：2560×1920ピクセル）に固定されます。
	ISO感度設定（□57）	［**ISO 感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にして撮影するときは、選べる［**画像モード**］は3M［**2048×1536**］、PC［**1024×768**］、VGA［**640×480**］に制限されます。 これらの画像サイズ以外に設定していたときに［**ISO感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、3M［**2048×1536**］に変更されます。
マクロモード	ターゲット追尾（□55）	タッチ撮影を［**ターゲット追尾**］にすると、マクロモードは使えません。
ISO 感度設定	連写（□58）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、［**ISO感度設定**］は明るさに応じて自動的に設定されます。
連写	セルフタイマー（□37）	セルフタイマーで撮影するときは、［**単写**］に固定されます。
	タッチシャッター（□41）	タッチシャッターを使うと1コマずつの撮影になります。
目つぶり検出設定	連写（□58）	［**連写**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］にして撮影するときは、目つぶり検出しません。
デート写し込み	連写（□58）	［**連写**］、［**BSS**］にして撮影するときは、日付を写し込めません。
	目つぶり軽減（□76）	［**ON**］に設定すると、［**デート写し込み**］は使えません。
	手ブレ補正（□150）	［**ON（ハイブリッド）**］に設定すると、［**デート写し込み**］は使えません。

制限される機能	設定	内容
電子ズーム	連写（□58）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、電子ズームは使えません。
	ターゲット追尾（□55）	タッチ撮影を［**ターゲット追尾**］にすると、電子ズームは使えません。

撮影モードによって制限される機能について

撮影モード（□49）によって、使える機能が異なります。各撮影モードで使える機能については以下をご覧ください。

- （らくらくオート撮影）モード→□34
- （オート撮影）モード→□53
- シーンモード→□62
- ベストフェイスモード→□75

関連ページ

電子ズームについてのご注意→□152

1コマ表示中の操作

撮影モードのときに▶（再生）ボタンを押すと再生モードになり、撮影した画像を再生します（📖32）。

1コマ表示では、以下の操作ができます。

機能	アイコン/ボタン	内容	📖
画像を選ぶ	–	画像を右へドラッグすると前の画像、左へドラッグすると次の画像を表示します。	32
画像を一覧表示する	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、4コマ、9コマ、または16コマのサムネイル画像を表示します。	80
画像を拡大する	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、最大約10倍までの倍率に拡大します。**X**をタッチすると、1コマ表示に戻ります。	82
動画を再生する	▶	表示中の動画を再生します。	128
画像にランクを設定する/ランク別に再生する	右のタブ（★）	画像に5段階のランクを設定できます。ランク別に再生できます。	97
再生に関する設定をする	下のタブ	画像に対して設定や編集ができます。	96
再生モードを切り換える	(▶)	再生モードメニューを表示して、お気に入り再生モード、オート分類再生モード、撮影日一覧モードへの切り換えができます。	83
撮影モードに切り換える	📷 ● / シャッターボタン	📷ボタン、●（動画撮影）ボタンまたはシャッターボタンを押します。	32
プロジェクターモードに切り換える	📽	撮影した画像を内蔵プロジェクターで投映します。	163

画像の向き（縦横位置）について

カメラを縦に構えて撮影した画像（縦位置の画像）は、自動的に回転して表示されます（📖15）。回転方向は、［**画像回転**］（📖105）で変更できます。
カメラ本体を回転すると、画像も回転して表示されます（📖15）。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

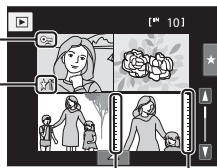
再生モードの1コマ表示（📖79）でズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。

サムネイル表示では、以下の操作ができます。

機能	アイコン/ボタン	内容	📖
表示コマ数を増やす	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、4コマ→9コマ→16コマに切り換わります。	–
表示コマ数を減らす	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、16コマ→9コマ→4コマに切り換わります。 4コマ表示でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に戻ります。	–
画面をスクロールする	▲▼	▲または▼をタッチするか、画面右のスライダーをドラッグします。液晶モニターを上下にドラッグしてもスクロールできます。	–
1コマ表示に切り換える	–	画像をタッチします。	32
画像にランクを設定する/ランク別に再生する	右のタブ（★）	画像に5段階のランクを設定できます。ランク別に再生できます。	97
再生に関する設定をする	下のタブ	［**削除**］、［**スライドショー**］、［**プロテクト設定**］または［**プリント指定**］ができます。	96
撮影モードに切り換える	📷 ● / シャッターボタン	📷ボタン、●（動画撮影）ボタンまたはシャッターボタンを押します。	32

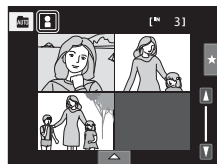
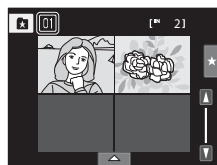
いろいろな再生

サムネイルに表示されるマーク

ランク設定（📖97）または［**プロテクト設定**］（📖99）をした画像には右のマークが表示されます。動画は、映画フィルムの１コマのように表示されます。

プロテクト表示
ランク表示
動画表示

お気に入り再生およびオート分類再生中のサムネイル表示

- お気に入り再生（📖84）でサムネイル表示をすると、再生しているお気に入りフォルダーのアイコンが画面上に表示されます。

- オート分類再生（📖91）でサムネイル表示をすると、再生している分類のアイコンが画面上に表示されます。

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（📖79）でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、表示中の画像の中央部が拡大表示されます。

- 画面右下のガイドは、画像のどの部分を表示しているかを示しています。

拡大表示では、以下の操作ができます。

機能	アイコン/ボタン	内容	📖
拡大倍率を上げる	**T** （Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。約10倍まで拡大できます。	–
拡大倍率を下げる	**W** （▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。	–
表示範囲を移動する	–	画像をドラッグすると、表示範囲を移動できます。	–
画像を削除する	🗑	🗑をタッチします。	33
1コマ表示に戻る	X	Xをタッチします。	32
画像の一部を切り抜く（トリミング）	✂	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	122
撮影モードに切り換える	📷 ● ↓	📷ボタン、●（動画撮影）ボタンまたはシャッターボタンを押します。	32

顔認識して撮影した画像の場合

顔認識（📖50）して撮影した画像は、1コマ表示でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます（[**連写**]、[**BSS**]、[**マルチ連写**]（📖58）で撮影した画像を除く）。

- 複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、☺または☺をタッチすると表示する顔が切り換わります。

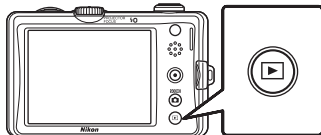
- さらに**T**（Q）方向または**W**（▦）方向に回すと拡大率が変わり、通常の拡大表示になります。

分類して再生する

以下の再生モードを選べます。

▶	**再生**	32
	撮影したすべての画像を再生します。	
★	**お気に入り再生**	84
	お気に入りフォルダーに登録した画像を再生します。	
AUTO	**オート分類再生**	91
	撮影時に自動分類された項目を選んで、画像や動画を再生します。	
12	**撮影日一覧**	94
	撮影日を選んで、画像を再生します。	

1 再生時に▶ボタンを押す

- 再生モードメニューが表示されます。

2 設定したい再生モードのアイコンをタッチする

- 選んだモードに切り換わります。
- 再生モードを切り換えずに再生モードに戻るには、▶ボタンを押します。

お気に入りの画像を分類する（お気に入り再生）

撮影した画像は、お気に入りフォルダーへ登録して分類できます。
登録後は、「お気に入り再生モード」にすると、登録した画像だけを再生できます。

- お気に入りフォルダーに登録しておくと、画像を探すときに見つけやすくなります。
- 画像を旅行や結婚式などのイベントごとに分類して再生できます。
- 同じ画像を複数のフォルダーに登録できます。

画像をお気に入りフォルダーに登録する

撮影した画像をお気に入りフォルダーに登録して分類します。

1 再生モード（□32）、オート分類再生モード（□91）または撮影日一覧モード（□94）で画像を再生する

2 お気に入りの画像を選び、下のタブをタッチする

- 1コマ表示にして下のタブをタッチしてください。

3 ★をタッチする

- お気に入り登録画面が表示されます。

4 画像を登録したいお気に入りフォルダーをタッチする

- 登録が完了し、1コマ表示に戻ります。
- 同じ画像を複数のフォルダーに登録するときは、手順1または2から操作を繰り返します。

お気に入り登録についてのご注意

- 1つのお気に入りフォルダーに登録できる画像は、最大200コマです。
- 動画はお気に入りフォルダーに登録できません。
- 選んだ画像がすでにお気に入りフォルダーに登録されているときは、登録されているお気に入りフォルダーのアイコンが黄色になります。
- 画像をお気に入りフォルダーに登録しても、画像ファイルは記録したフォルダー（□181）からお気に入りフォルダーへコピーも移動もされません（□90）。

関連ページ

お気に入り登録を解除する→□87

お気に入りフォルダーの画像を再生する

「★お気に入り再生モード」にすると、画像を登録したお気に入りフォルダーを選んで画像を表示できます。

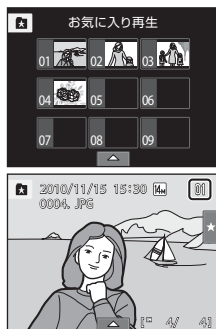
- 1コマ表示にすると、通常の再生モードと同様に、サムネイル表示、拡大表示ができます。下のタブをタッチして設定アイコンを表示すると、同じお気に入りフォルダーの画像を対象に設定や編集ができます（□96）。

1 再生時に ▶ ボタンを押して再生モードメニューを表示し（□83）、★をタッチする

- お気に入りフォルダーの一覧表示になります。

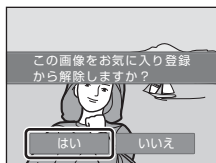
2 表示したいお気に入りフォルダーをタッチする

- 選んだお気に入りフォルダーの画像が、1 コマ表示されます。
- 再生中のお気に入りフォルダーアイコンが画面に表示されます。
- お気に入りフォルダーを選び直すときは、手順 1～2を繰り返してください。

いろいろな再生

お気に入り登録を解除する

画像を削除しないで、お気に入りフォルダーから画像の登録を解除したいときは、以下のように操作してください。

- お気に入り再生モードの1コマ表示（□86 の手順2）で解除したい画像を選びます→下のタブをタッチして設定アイコンを表示します→★をタッチすると、登録解除の確認画面が表示されます。

- ［**はい**］をタッチし、登録を解除します。解除をやめるには、［**いいえ**］をタッチします。

削除についてのご注意

お気に入り再生モードで画像を削除すると、お気に入りフォルダーから画像が消えるだけでなく、内蔵メモリーまたはSDカードに記録されている元の画像も削除されますのでご注意ください（□90）。

お気に入り再生モードの操作

お気に入りフォルダーの一覧画面では、以下の操作ができます。

機能	アイコン/ボタン	内容	📖
お気に入りフォルダーのアイコンを変更する	✎	下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、✎をタッチします。	89
選んだフォルダーの画像をまとめて削除する	🗑	下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、🗑をタッチすると、フォルダーの選択画面が表示されます。フォルダーを選んでOKをタッチします。	–
再生モードを切り換える	▶	再生モードメニューを表示します。	83
撮影モードに切り換える	📷 ● / シャッターボタン	📷ボタン、●（動画撮影）ボタンまたはシャッターボタンを押します。	32

いろいろな再生

お気に入りフォルダーのアイコンを変更する

お気に入りフォルダーのアイコンのデザインは変更できます。変更すると、どのフォルダーにどのような分類で画像を登録したか分かりやすくなります。

1 再生時に ▶ ボタンを押して再生モードメニューを表示し（□83）、★をタッチする

- お気に入りフォルダーの一覧表示になります。

2 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、✎をタッチする

3 変更したいフォルダーをタッチする

- アイコンとアイコンの色の選択画面になります。

4 フォルダーに表示したいアイコンをタッチし、アイコンの色をスライダーをタッチまたはドラッグして選んだら、OKをタッチする

- アイコンが変更され、お気に入りフォルダーの一覧画面に戻ります。
- ↩をタッチすると、設定を変更せずにフォルダー選択画面に戻ります。

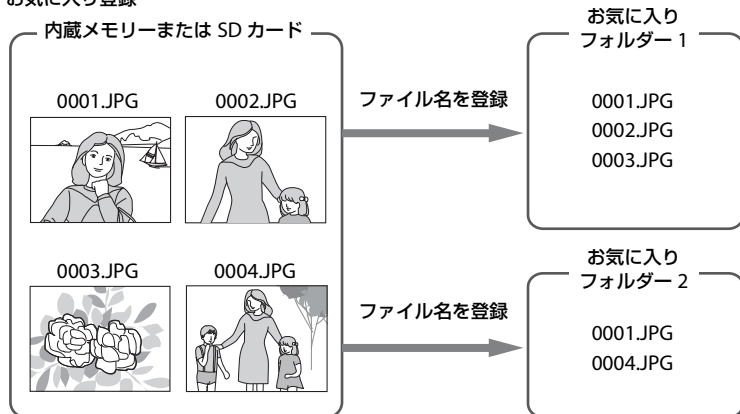
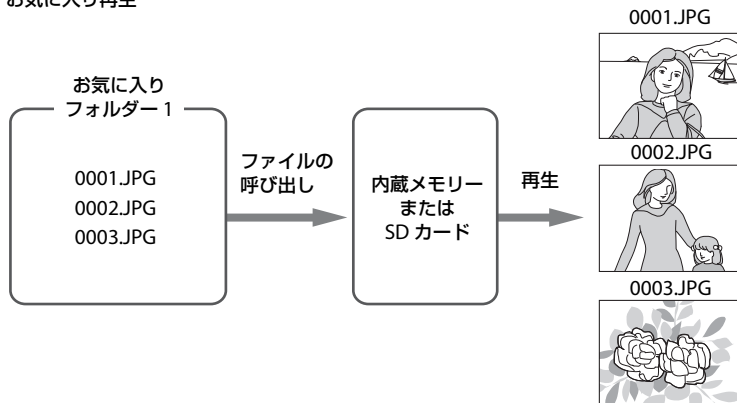
✔ お気に入りフォルダーのアイコン設定についてのご注意

お気に入りフォルダーのアイコンは、内蔵メモリーまたはSDカードごとに設定してください。

- 内蔵メモリーのお気に入りフォルダーアイコンを変更するときは、SD カードをカメラから取り出してください。
- アイコンの初期設定は数字アイコンです。

お気に入りの登録/再生について

画像をお気に入りフォルダーに登録しても、画像ファイルは記録したフォルダー（□181）からお気に入りフォルダーへコピーも移動もされません。お気に入りフォルダーには、画像のファイル名が登録されます。お気に入り再生モードでは、お気に入りフォルダーに登録されているファイル名から画像を呼び出して再生します。
お気に入り再生モードで画像を削除（□33、88）すると、お気に入りフォルダーから画像が消えるだけでなく、内蔵メモリーまたはSDカードに記録されている元の画像が削除されますのでご注意ください。

お気に入り登録

お気に入り再生

オート分類再生で画像を探す

画像や動画は、撮影時に以下のいずれかの項目に自動的に分類されます。
「オート分類再生モード」にすると、撮影時に分類された項目を選んで画像や動画を表示できます。

笑顔	人物	料理
風景	夜景	接写
動画	編集済み画像	その他の画像

- 1コマ表示にすると、通常の再生モードと同様に、サムネイル表示、拡大表示または動画再生ができます。下のタブをタッチして設定アイコンを表示すると、同じ分類の画像を対象に設定や編集ができます（96）。

オート分類再生モードで画像を表示する

1 再生時に▶ボタンを押して再生モードメニューを表示し（83）、をタッチする

- 分類項目の一覧画面になります。

2 表示したい分類項目をタッチする

- 分類項目についての詳細は、「分類の種類と内容」（92）をご覧ください。

- 選んだ項目の画像が1コマ表示されます。
- 再生中の項目のアイコンが画面に表示されます。
- 分類項目を選び直すときは、手順1～2を繰り返してください。

いろいろな再生

分類の種類と内容

項目	内容
笑顔	ベストフェイスモード（□73）で笑顔自動シャッターを［**ON**］にして撮影した画像。
人物	（オート撮影）モード（□52）で顔認識撮影した画像。 シーンモード（□61）の［**ポートレート**］※、［**夜景ポートレート**］※、［**パーティー**］、［**逆光**］※で撮影した画像。 ベストフェイスモード（□73）で笑顔自動シャッターを［**OFF**］にして撮影した画像。
料理	シーンモード（□61）の［**料理**］で撮影した画像。
風景	シーンモード（□61）の［**風景**］※で撮影した画像。
夜景	シーンモード（□61）の［**夜景**］※、［**夕焼け**］、［**トワイライト**］、［**打ち上げ花火**］で撮影した画像。
接写	（オート撮影）モードでマクロ（□54）に設定して撮影した画像。 シーンモード（□61）の［**クローズアップ**］※で撮影した画像。
動画	動画（□123）。
編集済み画像	画像編集（□108）で作成した画像。
その他の画像	他の分類項目に該当しない画像。

※ （らくらくオート撮影）モード（□26）で切り換わった場合も含みます。

オート分類再生モードについてのご注意

- 1つの分類項目で表示できるのは、最大999コマです。撮影時にすでに999コマある分類項目に該当した画像/動画は、オート分類再生モードに登録できず、オート分類再生モードで表示できません。通常の再生モード（□32）または撮影日一覧モード（□94）で表示してください。
- 内蔵メモリーまたはSD カードからコピーした画像や動画（□161）は、オート分類再生モードでは表示できません。
- COOLPIX S1100pj以外で記録した画像や動画は、オート分類再生モードで表示できません。

オート分類再生モードの操作

オート分類再生の一覧画面では、以下の操作ができます。

機能	アイコン/ボタン	内容	📖
選んだ分類項目の画像をまとめて削除する	🗑	下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、🗑をタッチすると、分類項目の選択画面が表示されます。項目を選んでOKをタッチします。	–
再生モードを切り換える	▶	再生モードメニューを表示します。	83
撮影モードに切り換える	📷 / ● / シャッターボタン	📷ボタン、●（動画撮影）ボタンまたはシャッターボタンを押します。	32

いろいろな再生

特定の日付の画像を選ぶ（撮影日一覧モード）

「撮影日一覧モード」にすると、同じ撮影日の画像だけを再生できます。

- 1コマ表示にすると、通常の再生モードと同様に、サムネイル表示、拡大表示または動画再生ができます。下のタブをタッチして設定アイコンを表示すると、同じ日付の画像を対象に設定や編集ができます（□96）。

撮影日一覧モードで日付を選ぶ

1 再生時に ▶ ボタンを押して再生モードメニューを表示し（□83）、をタッチする

- 撮影日の一覧画面になります。

2 表示したい日付をタッチする

- 表示する月を切り換えるには、◀または▶をタッチします。

- 選んだ日に最初に撮影した画像が、1コマ表示されます。

- 日付を選び直すときは、手順1～2を繰り返してください。

撮影日一覧モードについてのご注意

- 撮影日一覧モードで表示できる画像は、最新の画像から9,000 コマまでです。
- 日時を設定せずに撮影した画像は、「2010年1月1日」の画像として扱われます。

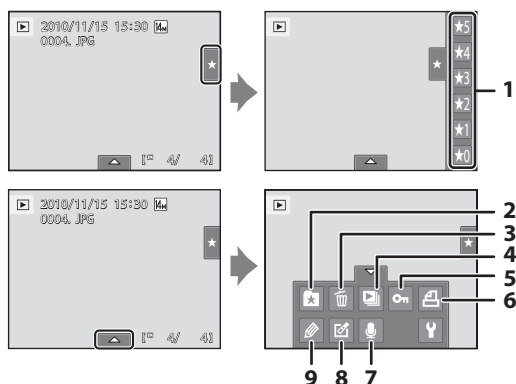
撮影日一覧モードの操作

撮影日の一覧画面では、以下の操作ができます。

機能	アイコン/ボタン	内容	📖
表示する月を切り換える	◀▶	◀または▶をタッチします。	–
選んだ日付の画像をまとめて削除する	🗑	下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、🗑をタッチすると、日付の選択画面が表示されます。日付を選んでOKをタッチします。	–
再生モードを切り換える	▶	再生モードメニューを表示します。	83
撮影モードに切り換える	📷 / ● / シャッターボタン	📷ボタン、●（動画撮影）ボタンまたはシャッターボタンを押します。	32

再生に関する設定

再生モードの1コマ表示で、タブをタッチして設定アイコンを表示すると、画像に対して設定や編集ができます。

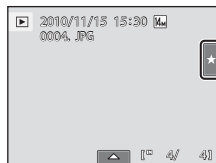
- 再生中の画像の種類やカメラの状態によって、操作できる項目や表示は異なります。
- 設定したい項目のアイコンをタッチすると、その項目の設定画面になります。
- 設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

1	ランク設定※ 97	4	スライドショー※ 98
2	お気に入りフォルダーへの登録（お気に入り再生モード以外）......84 お気に入りフォルダーからの解除（お気に入り再生モード）......87	5	プロテクト設定※ 99
		6	プリント指定※ 101
		7	音声メモ......106
		8	画像編集......108 画像回転......105
3	削除※ 33	9	ペイント 110

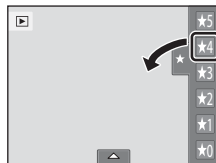
※ サムネイル表示にしても設定できます。お気に入り再生、オート分類再生または撮影日一覧モードでサムネイル表示に切り換えたときは、選んだフォルダー、分類または撮影日の画像だけを対象に設定ができます。

画像にランクを設定する（レーティング）

画像に5段階のランクを設定できます。
また、同じランクの画像だけに絞り込んで再生できます。

1 1コマ表示（□79）またはサムネイル表示（□80）で、右のタブをタッチする

- タブの基本操作→□16

2 設定したいランクのアイコンを、画像にドラッグアンドドロップ（□10）する

- ランクが設定されます。
- ランクを変更するには、別のランクをドラッグアンドドロップします。
- ランクの設定を解除するには、★0 をドラッグアンドドロップします。
- 1コマ表示のときは、☆の数でランクを確認できます。

ランク別に再生する

1 1コマ表示（□79）またはサムネイル表示（□80）で、右のタブをタッチする

2 再生したいランクのアイコンをタッチする

- タッチしたランクのアイコンが黄色に変わり、そのランクに設定されている画像だけが表示されます。複数のランクを選べます。
- 選んだランクを解除するには、解除したいランクをタッチします。
- ランク別の再生をやめるには、すべてのランクを選ぶか、すべてのランクを解除します。

ランク設定についてのご注意

- 1つのランクに設定できる画像は999コマまでです。
- 動画にはランク設定できません。
- COOLPIX S1100pjで設定したランク（レーティング情報）は、パソコンで利用できません。

いろいろな再生

スライドショーを楽しむ

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 再生モードで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

2 ［開始］をタッチする

- ［**開始**］をタッチする前に［**効果**］をタッチすると、スライドショー中の効果を選べます。［**クラシック**］と［**ズーム**］から選べます。
- 繰り返し再生するには、［**開始**］をタッチする前に［**エンドレス**］をタッチし、チェックボックスをオン［✔］にします。
- DEMOをタッチすると、カメラに内蔵されたサンプル画像をエンドレスで再生します。
- スライドショーを再生せずにやめるには、をタッチします。

3 スライドショーが始まる

- 液晶モニターをタッチすると、画面下に操作パネルが表示されます。

操作パネルのアイコンをタッチすると、以下の操作ができます。

機能	アイコン	内容
音量		BGMの音量を調節できます。
巻き戻し		タッチしている間、巻き戻しします。
早送り		タッチしている間、早送りします。
一時停止		タッチすると、一時停止します。 • 再生を再開するには、画面中央に表示される をタッチします。
再生終了		タッチすると、スライドショーを終了します。

スライドショーについてのご注意

- 動画は1フレーム目だけを表示します。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大30分です（📖153）。

大切な画像を保護（プロテクト）する

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時にマーク（14）が表示されます。

1コマだけ保護（プロテクト）する

1 プロテクトする画像を1コマ表示し、下のタブをタッチする

2 をタッチする

3 ［ON］をタッチする

- 画像がプロテクトされます。
- プロテクトをやめるには、をタッチします。

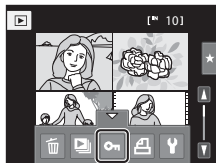
プロテクト設定についてのご注意

内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、154）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

複数の画像を保護（プロテクト）する

複数の画像を一度にプロテクトできます。

1 サムネイル表示にして（□80）、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、Onをタッチする

- ［**プロテクト画像選択**］画面に切り換わります。

2 プロテクトしたい画像をタッチする

- 選択した画像にはチェックマークが表示されます。もう一度タッチすると、チェックマークが外れます。
- または をタッチするか、ズームレバーを **T**（Q）または **W**（■）方向に回すと、画面に表示するコマ数を切り換えできます。

3 OKをタッチする

- 画像がプロテクトされます。
- プロテクトをやめるには、をタッチします。

プロテクト設定を解除する

- 1 コマずつプロテクト設定を解除するには、プロテクト設定された画像を 1 コマ表示して「1 コマだけ保護（プロテクト）する」（□99）の操作をし、手順3の画面で［**OFF**］をタッチします。
- 複数画像のプロテクト設定を解除するには、「複数の画像を保護（プロテクト）する」の手順2の画面で、プロテクト設定された画像のチェックマークを外します。

凸 SDカードにプリントする画像や枚数を設定する（プリント指定）

SDカードに記録した画像を以下の方法でプリントする場合、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめSDカードに設定できます。

- カードスロットが付いたDPOF対応（□196）のプリンターでプリントする。
- DPOF対応のプリントサービス店にプリントを依頼する。
- カメラを PictBridge 対応（□196）のプリンターに接続してプリントする（□136）（カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます）。

1コマだけプリント指定する

1 プリントする画像を 1 コマ表示し、下のタブをタッチする

2 凸をタッチする

3 プリントする枚数をタッチし、OKをタッチする

- プリント指定をやめるには、をタッチします。

- 今回のプリント指定を追加することで設定コマ数が99コマを超える場合は、右の画面が表示されます。
  - ［**はい**］を選ぶと、他の画像のプリント指定をすべて解除して、今回の設定だけを残します。
  - ［**キャンセル**］を選ぶと、他の画像のプリント指定を残して、今回の設定を取り消します。

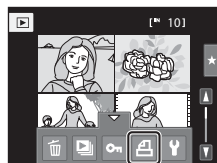
4 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- [**日付**] をタッチしてチェックボックスをオン [✔] にすると、撮影日を印字します。
- [**撮影情報**] をタッチしてチェックボックスをオン [✔] にすると、撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- OK をタッチして、設定を有効にします。

プリント指定を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

複数の画像をプリント指定する

1 サムネイル表示にして（80）、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- プリント指定画面に切り換わります。

2 プリントしたい画像（最大 99 コマまで）をタッチして選び、画面左上のまたはをタッチしてプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- またはをタッチするか、ズームレバーを**T**（）または**W**（）方向に回すと、画面に表示するコマ数を切り換えできます。
- をタッチすると、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。
- 設定が終了したらをタッチします。

3 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］をタッチしてチェックボックスをオン［✔］にすると、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］をタッチしてチェックボックスをオン［✔］にすると、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- をタッチして、設定を有効にします。

プリント指定を解除する

- 1コマずつプリント指定を解除するには、プリント指定された画像を1コマ表示して「1コマだけプリント指定する」（□101）の操作をし、手順3の画面で「0」をタッチします。
- 複数画像のプリント指定を解除するには、「複数の画像をプリント指定する」（□103）の手順2の画面で、プリント指定された画像のチェックマークを外します。RESET をタッチすると、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。

日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（□196）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOF プリント」（□141）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］メニューを表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**日時設定**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

［デート写し込み］について

セットアップメニューの［**デート写し込み**］（□149）を使うと、撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

デート写し込みした画像は、［**プリント指定**］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

画像を回転する

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。静止画を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。

1 1コマ表示（79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

- 画像回転画面になります。

3 またはをタッチする

時計方向に
90度回転

反時計方向に
90度回転

- 画像が90度回転します。
- をタッチすると、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。
- 画像回転をやめるには、をタッチします。

画像に音声メモを付ける

撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

音声メモを録音する

1 1 コマ表示（79）で画像を選び、下のタブをタッチする

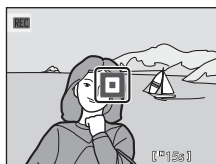
2 をタッチする

- 音声メモの録音画面になります。

3 をタッチして音声メモを録音する

- 約20 秒まで音声メモを録音できます。
- 録音中はカメラのマイクに触れないようご注意ください。
- 音声メモを録音せずにやめるには、をタッチします。
- 録音中は REC が点滅します。
- 録音中にをタッチすると、録音が停止します。
- 録音が終了すると、音声メモ再生画面になります。「音声メモを再生する」（107）の手順3にしたがって再生できます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像には、1コマ表示でが表示されます。

1 1 コマ表示（79）で画像を選び、下のタブをタッチする

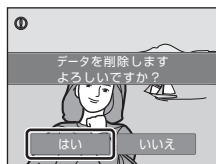
2 をタッチする

- 音声メモの再生画面になります。

3 をタッチして音声メモを再生する

- 再生を途中で止めるには、をタッチします。
- 再生中は、をタッチして音量を調節できます。
- 再生中は♪が点滅します。
- 音声メモを再生せずにやめるには、をタッチします。

音声メモを削除する

「音声メモを再生する」の手順3でをタッチします。［**はい**］をタッチすると、音声メモだけを削除します。

音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX S1100pj 以外で撮影した画像には、COOLPIX S1100pj で音声メモを付けられません。

画像編集の種類

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。以下の機能で編集した画像は元画像とは別に、異なるファイル名で保存されます（□181）。

編集の種類	用途
ペイント（□110）	画像に絵を描いたり、スタンプを押したりします。
簡単レタッチ（□113）	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。
D-ライティング（□114）	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
スリム効果（□115）	画像を横方向に伸縮します。人物を細く見せたり、太く見せたりするときなどに使います。
アオリ効果（□116）	横位置で撮影した画像の遠近感を強めたり、弱めたりします。シフトレンズのようなアオリ効果があります。建物を撮影したときなどに使います。
フィルター効果（□117）	デジタルフィルターでいろいろな効果をつけます。効果の種類には、［**ピクチャーカラー**］、［**ソフト**］、［**セレクトカラー**］、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］があります。
メイクアップ効果（□119）	人物の顔の肌をなめらかにしたり、顔を小さく見せたり、目を大きく見せたりします。
スモールピクチャー（□121）	サイズの小さい画像を作成します。電子メールに添付して送信するときなどに使います。
トリミング（□122）	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。

画像回転については105ページをご覧ください。

☑ 画像編集についてのご注意

- ［**画像モード**］（□39）を［**3968×2232**］にして撮影した画像は、編集できません。
- COOLPIX S1100pj以外で撮影した画像は、COOLPIX S1100pjで編集できません。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、メイクアップ効果の編集はできません（□119）。
- COOLPIX S1100pj以外のデジタルカメラでは、COOLPIX S1100pjで編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

編集で作成した画像に別の編集を追加するときには、以下の制限があります。

編集に使った機能	追加できる編集機能
ペイント	ペイント、スモールピクチャーまたはトリミングができます。
簡単レタッチ D-ライティング スリム効果 アオリ効果 フィルター効果	ペイント、スモールピクチャー、メイクアップ効果またはトリミングができます。
メイクアップ効果	メイクアップ効果以外の編集ができます。
スモールピクチャー	追加編集できません。
トリミング	追加編集できません。ただし、640×480以上の画像サイズで保存された画像にはペイントができます。

- ペイントを除き、編集で作成した画像に同じ種類の編集を繰り返すことはできません。
- スモールピクチャーまたはトリミングと別の編集機能を組み合わせるときは、スモールピクチャーまたはトリミングは最後に編集してください。
- 撮影時に美肌機能を使って撮影した画像（□75）にも、メイクアップ効果で美肌などの編集ができます。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ランク設定（□97）、プロテクト設定（□99）またはプリント指定（□101）した画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

画像を編集する

ペイント

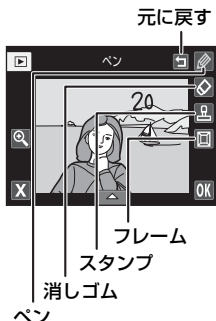
画像に絵を描いたり、スタンプを押したりできます。撮影日のスタンプを押すこともできます。ペイントした画像は、元画像とは別に保存されます。

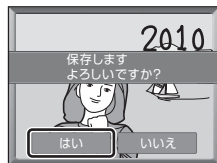
1 1コマ表示（□79）で画像を選び、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

2 、、、を使ってペイントする

- ペイントツールの使い方→□111
- をタッチすると、画像を全画面に表示し、もう一度をタッチすると、3倍に拡大表示できます。表示範囲を移動するときは、をタッチします。拡大表示を終了するには、をタッチします。
- をタッチすると、ペン、消しゴム、スタンプで描いた動作を取り消して、ひとつ前の状態に戻ります（最大5回前まで）。

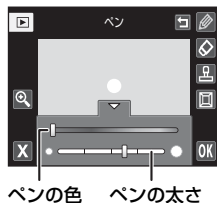
3 をタッチする

画像の編集

4 ［はい］をタッチする

- ペイント画像が作成されます。
- ［**画像モード**］（📖39）が 3M［**2048 × 1536**］以上の画像は2048×1536、PC［**1024×768**］、VGA［**640×480**］は640×480の画像サイズで保存されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- ペイントした画像は、再生画面で✎が表示されます。

ペイントツールの使い方

文字や絵を描く

✎をタッチすると、文字や絵を描けます。
ペンの色や太さを変えるには、下のタブをタッチして、右の画面を表示します。

- 「ペンの色」スライダーをタッチまたはドラッグすると、ペンの色を選べます。
- 「ペンの太さ」スライダーをタッチすると、ペンの太さを選べます。

文字や絵を消す

◇をタッチすると、画像に描いた線やスタンプを消せます。
消しゴムの大きさを変えるには、下のタブをタッチして、右の画面を表示します。

- 「消しゴムの大きさ」スライダーをタッチすると、消しゴムの大きさを選べます。

消しゴムの大きさ

スタンプを押す

🖃をタッチすると、スタンプを押せます。
スタンプの種類と大きさを変えるには、下のタブをタッチして、右の画面を表示します。

- 「スタンプの種類」は、14種類から選べます。
- 「スタンプの大きさ」スライダーをタッチすると、スタンプのサイズを選べます。
- 「スタンプの種類」でDATEを選んだときは、DATE（年・月・日）とDATE（年・月・日・時刻）を選べます。

フレームを付ける

▣をタッチすると、画像にフレームを付けられます。

- ◀または▶をタッチすると、7種類のフレームが順番に表示されます。OKをタッチすると、フレームを決定します。

撮影日スタンプについてのご注意

- ［**画像モード**］（□39）がVGA［**640×480**］の画像に撮影日のスタンプを押すと、日付が読みづらいことがあります。撮影するときに、［**画像モード**］をPC［**1024×768**］以上にしてください。
- 年月日の並びは、セットアップメニューの［**日時設定**］（□145）での設定と同じになります。
- スタンプできる日時は、撮影時点でカメラに設定されていた日時です。スタンプする日時は変更できません。

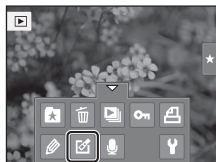
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名➞□181

簡単レタッチ（コントラストと鮮やかさを高める）

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を、簡単に作成できます。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1 コマ表示（79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

- 効果の度合いを設定する画面が表示されます。

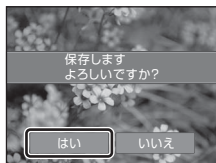
3 効果の度合いを選び、OKをタッチする

4 ［はい］をタッチする

- レタッチした画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- 簡単レタッチで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

画像の編集

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。補正した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1 コマ表示（□79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

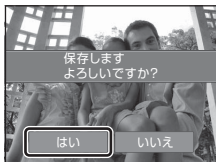
- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 OKをタッチする

4 ［はい］をタッチする

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- D-ライティングで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□181

スリム効果（画像を伸縮させる）

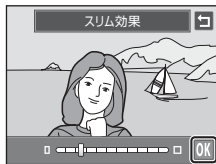
画像を横方向に伸縮します。スリム効果で作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

3 またはをタッチするか、画面下のスライダーをタッチまたはドラッグして、スリム効果を調節する

4 をタッチする

5 ［はい］をタッチする

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- スリム効果で作成した画像は、再生画面でが表示されます。

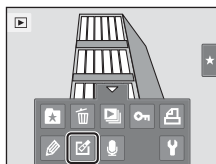
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

アオリ効果（遠近効果をつける）

横位置で撮影した画像の遠近感を強めたり、弱めたりします。アオリ効果で作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

3 または をタッチするか、画面下のスライダーをタッチまたはドラッグして、アオリの効果を調節する

4 をタッチする

5 ［はい］をタッチする

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- アオリ効果で作成した画像は、再生画面でが表示されます。

保存します
よろしいですか?
はい　いいえ

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

画像の編集

フィルター効果（デジタルフィルター）

デジタルフィルターでいろいろな効果をつけます。効果の種類には、［**ピクチャーカラー**］、［**ソフト**］、［**セレクトカラー**］、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］があります。フィルター効果で作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

3 またはをタッチして、フィルター効果を選ぶ

種類	内容
ピクチャーカラー	画像の色調を変えます。 • （ビビッドカラー）、（白黒）、（セピア）、（クール）から選び、OK をタッチします。

種類	内容
ソフト	タッチした部分の周りを、ぼかしたようにソフトな雰囲気にします。 • 画面をタッチしたら、効果の度合いを選び、OK をタッチします。
セレクトカラー	画像の特定の色だけを残し、他の部分を白黒にします。 • 画面に表示されるスライダーをタッチして残したい色を選んだら、OK をタッチします。
クロススクリーン	太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋を伸ばします。夜景などを撮影した画像が適しています。 • 効果を確認し、OK をタッチします。
魚眼効果	魚眼レンズで撮影したような画像にします。マクロで撮影した画像が適しています。 • 効果を確認し、OK をタッチします。
ミニチュア効果	ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像で、主要な被写体が画面中央付近に写った画像が適しています。 • 効果を確認し、OK をタッチします。

- 保存の確認画面が表示されます。
- をタッチすると、効果をつけずに画像編集メニューに戻ります。

4 保存の確認画面で［はい］をタッチする

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- フィルター効果で作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

メイクアップ効果

撮影した画像から人物の顔を検出して、顔の肌をなめらかにしたり、顔を小さく見せたり、目を大きく見せたりできます。メイクアップ効果で作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

3 （美肌）または（すべて）をタッチする

- ：顔の肌をなめらかにします。
- ：美肌に加え、小顔効果、目を大きく見せる効果を追加します。
- 効果の確認画面が表示されます。

4 効果を確認する

- 最も画面の中央に近い順に、最大12人の肌を編集します。
- ［**メイク前**］または［**メイク後**］をタッチすると、処理前の画像と処理後の画像を切り換えます。
- 編集した顔が複数あるときは、またはをタッチすると、顔の切り換えができます。
- 効果を変えたいときは、をタッチして手順3に戻ります。
- OKをタッチすると、保存確認画面を表示します。

画像の編集

5 ［はい］をタッチする

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- メイクアップ効果で作成した画像は、再生画面で［アイコン］が表示されます。

メイクアップ効果についてのご注意

- 画像から人物の顔を検出できないときは、メイクアップ効果の編集はできません。
- 顔の向きや明るさなど、画像によっては、適切に顔を検出できないことや望ましい効果が得られないことがあります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

スモールピクチャー（画像サイズを小さくする）

撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。ホームページで使ったり、電子メールへ添付したりするのに便利です。サイズは［**640×480**］、［**320×240**］、または［**160×120**］から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

1 1 コマ表示（79）で画像を選んで、下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、をタッチする

- 画像編集メニューが表示されます。

2 をタッチする

3 作成したいスモールピクチャーのサイズのアイコンをタッチしてをタッチする

4 ［はい］をタッチする

- スモールピクチャーが作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- スモールピクチャーで作成した画像は、グレーの枠で囲まれて表示されます。

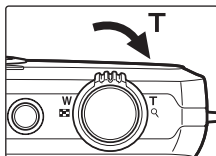
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

✂ トリミング（画像の一部を切り抜く）

拡大表示（📖82）中に✂が表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（📖79）でズームレバーを**T**（Q）方向に回して、画像を拡大表示する

- 縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、トリミング画像は横位置になります。縦位置のトリミング画像を作るには、画像を回転して（📖105）横位置にしてからトリミングし、再度トリミング画像を縦位置に戻します。

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーを**T**（Q）または**W**（⊞）方向に回して拡大率を調節します。
- 画像をドラッグして表示範囲を移動します。

3 ✂をタッチする

4 ［はい］をタッチする

- トリミングした画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］をタッチします。
- トリミングで作成した画像は、再生画面で✂が表示されます。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。

トリミングして画像サイズが320×240または160×120になった画像は、再生時にグレーの枠で囲まれ、画面上にスモールピクチャーの囧のアイコンが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→📖181

動画を撮影する

ハイビジョンの動画（音声付き）を撮影できます。

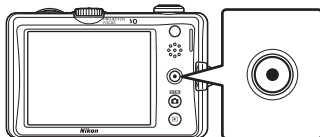
- 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでも最大29分です（□126）。

1 電源をONにして、撮影画面を表示する

- 動画は、どの撮影モード（□49）を選んでいても撮影できます。

2 ●（動画撮影）ボタンを押して、動画の撮影を開始する

- 液晶モニターが一度消灯した後、動画撮影が開始します。
- 画面中央でピントが合います。動画の撮影中は、AFエリアは表示されません。

- ［**動画設定**］（□125）が［**HD 720p (1280×720)**］（初期設定）の場合、撮影画面の縦横比が16：9に切り換わります（右の画面の範囲で記録されます）。
- 撮影中は、記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。
- 記録可能な残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

3 ●（動画撮影）ボタンを押して撮影を終了する

動画の保存についてのご注意

撮影終了後、撮影画面に切り換わるまでは、動画の保存は終了していません。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**保存が終了する前にSDカードやバッテリーを取り出すと、動画が記録されないことや、撮影した動画やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

動画撮影についてのご注意

- 動画をSDカードに記録するときは、SDスピードクラスがClass 6以上のSDカードをおすすめします（□180）。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 電子ズームを使うと画質が劣化します。電子ズームを使わずに動画撮影を開始したときは、ズームレバーを**T**方向に回し続けると、光学ズームの最大倍率でズームが止まります。いったんズームレバーから指をはなして、もう一度**T**方向に回すと電子ズームが作動します。電子ズームは、動画撮影を終了するとキャンセルされます。
- ズームレバーなどの操作音、ズーム、オートフォーカス、手ブレ補正、明るさが変化したときの絞り制御などの動作音が録音されることがあります。
- 動画の撮影では、液晶モニターにスミア（□177）が発生すると、記録される動画にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします
- 撮影距離やズーム倍率によっては、動画の撮影時や再生時、同じパターンを繰り返す被写体（布地や建物の格子窓など）に色の着いた縞模様（干渉縞、モアレ）が現れることがあります。これは被写体の模様と撮像素子の配列が干渉すると起きる現象で故障ではありません。

オートフォーカスについてのご注意

- セットアップメニューの［**動画AFモード**］が［**AF-S シングルAF**］（初期設定）の場合、●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときに、ピントは固定されます（□127）。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□31）では、ピント合わせができないことがあります。このような被写体を動画で撮影するときは、以下の方法をお試しください。
  1. 撮影前にセットアップメニューの［**動画AFモード**］を［**AF-S シングルAF**］（初期設定）にする。
  2. 等距離にある別の被写体を画面中央に配置して●（動画撮影）ボタンを押し、動画撮影を開始してから構図を変える。

動画撮影で使える機能

- 露出補正、ホワイトバランス（📷（オート撮影）モード時）またはシーンエフェクト調整スライダー（シーンモード時）の設定も撮影する動画に反映します。マクロモードのときは、より被写体に近づいて動画を撮影できます。動画の撮影を開始する前に設定を確認してください。
- セルフタイマー（□37）を使えます。セルフタイマーを設定し、●（動画撮影）ボタンを押すと、10秒または2秒経過後にピントを合わせてから動画撮影を開始します。
- フラッシュは発光しません。
- 動画の撮影を開始する前に［**動画設定**］、［**動画照明**］または［**動画AFモード**］を設定できます（□125）。

動画撮影の設定を変える

動画撮影に関する以下の設定を変更できます。動画の撮影を開始する前に設定してください。

	動画設定	📖125
	撮影する動画の種類を選びます。	
	動画照明	📖126
	動画撮影時の動画照明の点灯/非点灯を設定します。	
	動画AFモード	📖127
	動画撮影時のオートフォーカスの方法を選びます。	

動画設定

撮影画面を表示する ➔ 下のタブをタッチする（📖16）➔ 動画設定

撮影する動画の種類を選びます。解像度が高く、ビットレートが大きいほど高画質になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

種類	内容
HD 720p (1280×720)（初期設定）	ハイビジョン画質で縦横比16：9の動画を記録します。ワイドテレビで再生するのに適しています。 ・解像度：1280 × 720 ピクセル ・ビットレート：約 9 Mbps
VGA (640×480)	縦横比4：3の動画を記録します。 ・解像度：640 × 480 ピクセル ・ビットレート：約 3 Mbps
QVGA (320×240)	縦横比4：3の動画を記録します。 ・解像度：320 × 240 ピクセル ・ビットレート：約 640 Kbps

- ビットレートとは、1秒間あたりの動画のデータ量です。撮影する被写体により、ビットレートが自動的に変わる「VBR記録方式」を採用しています。動きの多い被写体を記録した場合は、ファイルサイズが大きくなります。
- 撮影フレーム数は、いずれの設定も約30フレーム/秒です。

動画の記録可能時間

設定	内蔵メモリー（約79 MB）	SDカード（4 GB）※
HD 720p (1280×720)（初期設定）	1分4秒	約55分
VGA (640×480)	3分	約2時間40分
QVGA (320×240)	8分26秒	約10時間10分

数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類や撮影した動画のビットレートによって記録可能時間は異なります。

※ 1回の撮影で記録可能な時間は、最長29分です。合計29分以上記録できるSDカードを使用しても、カメラが表示する記録可能時間は、最長29分です。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

動画照明

撮影/再生画面を表示する ➔ 下のタブをタッチする（143）➔
（セットアップメニュー）をタッチする ➔ 動画照明

動画撮影時に、暗い場所などで撮影を補助する動画照明の点灯/非点灯を設定します。

ON

動画撮影中に動画照明が点灯します。

OFF（初期設定）

動画照明は点灯しません。

動画AFモード

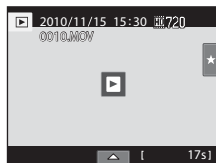
撮影/再生画面を表示する ➔ 下のタブをタッチする（□143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ 動画AFモード

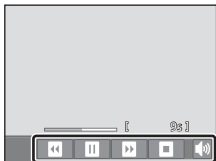
動画撮影時のオートフォーカスの方法を選びます。

設定	内容
シングルAF（初期設定）	●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときのピントに固定します。 撮影中に被写体との距離があまり変化しない撮影に適しています。
常時AF	動画撮影中、ピント合わせを繰り返します。 撮影中に被写体との距離が変化する撮影に適しています。ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］に設定して撮影することをおすすめします。

動画を再生する

1コマ表示（□79）で▶が表示されている画像が動画です。▶をタッチすると、再生できます。

- 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、🔊をタッチすると、再生前に音量を調節できます。

再生中に液晶モニターをタッチすると、画面下に操作パネルが表示されます。操作パネルのアイコンをタッチすると、以下の操作ができます。

動画再生中

<table>
<tr><th>機能</th><th>アイコン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>音量</td><td>🔊</td><td colspan="2">タッチすると、音量を調節できます。</td></tr>
<tr><td>巻き戻し</td><td>◀◀</td><td colspan="2">タッチしている間、巻き戻します。</td></tr>
<tr><td>早送り</td><td>▶▶</td><td colspan="2">タッチしている間、早送りします。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一時停止</td><td rowspan="4">❚❚</td><td colspan="2">タッチすると、一時停止します。
一時停止中に以下の操作ができます。</td></tr>
<tr><td>◀❚</td><td>タッチすると、1コマ戻ります。触れ続けると、連続してコマ戻しします。</td></tr>
<tr><td>❚▶</td><td>タッチすると、1コマ進みます。触れ続けると、連続してコマ送りします。</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>画面中央に表示される▶をタッチすると、再生を再開します。</td></tr>
<tr><td>再生終了</td><td>■</td><td colspan="2">タッチすると、1コマ表示に戻ります。</td></tr>
</table>

動画再生について

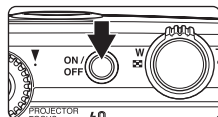
COOLPIX S1100pj以外で撮影した動画は再生できません。

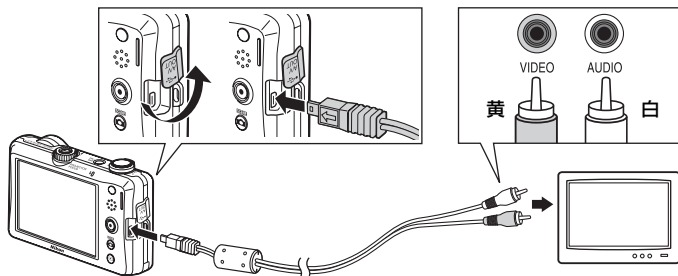
動画の削除について

「不要な画像を削除する」→□33

テレビに接続する

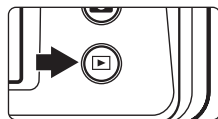
カメラを付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）でテレビに接続すると、テレビ画面で、撮影した画像の1コマ表示、スライドショー、動画の再生ができます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

- AVケーブルの黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、白のプラグを音声入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを押し続けて電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビに画像が表示されているときは、カメラの液晶モニターが消灯します。
- テレビ接続中の操作→📖130

テレビ接続中の操作

テレビに1コマ表示されているときに、カメラの液晶モニターをドラッグすると、前後の画像を表示できます。
動画の最初のフレームが表示されたときは、カメラの液晶モニターにタッチすると動画を再生できます。

- カメラの液晶モニターにタッチすると、テレビの表示が消え、カメラの液晶モニター表示に切り換わります。カメラ表示中はアイコンをタッチしてカメラを操作できます。
- テレビに接続しているときは、サムネイル表示、拡大表示およびトリミングはできません。
- 以下の場合は、自動的にテレビ表示に切り換わります。
  - カメラを操作しない状態が数秒続いたとき
  - スライドショーを再生したとき
  - 動画を再生したとき

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

画像がテレビに映らないときは

［**セットアップ**］メニュー（🕮142）→［**インターフェース**］（🕮155）→［**ビデオ出力**］がお使いのテレビに合っているか確認してください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

付属のViewNX 2 CD-ROMで、以下のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

- ViewNX 2：画像の転送機能「Nikon Transfer 2」で、撮影した画像をパソコンに取り込めます。取り込んだ画像を表示したり、画像を選んで印刷したりできます。静止画や動画を編集する機能もあります。
- Panorama Maker 5：画像をつなぎ合わせてパノラマ写真を作成できます。

ソフトウェアのインストール方法は、簡単スタートガイドをご覧ください。

対応OS（オペレーティングシステム）

Windows

- Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate
- Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate（Service Pack 2）
- Windows XP Home Edition/Professional（Service Pack 3）

Macintosh

Mac OS X（version 10.4.11、10.5.8、10.6.4）

ハイビジョン画質の動画再生条件については、ViewNX 2のヘルプの「動作環境」をご覧ください（□135）。
対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

電源についてのご注意

- パソコンと接続して画像を転送するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62F（□179）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からCOOLPIX S1100pjへ電源を供給できます。EH-62F以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

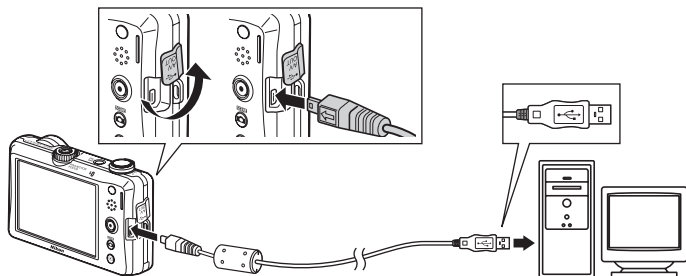
カメラからパソコンに画像を転送するときは、パソコンに接続する前に、セットアップメニュー→［**インターフェース**］（📖155）→［**USB**］の設定を［**MTP/PTP**］に設定します。

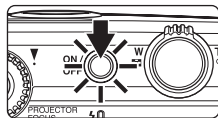
- ご購入時は、［**MTP/PTP**］に設定されています。

1 ViewNX 2をインストール済みのパソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源をONにする

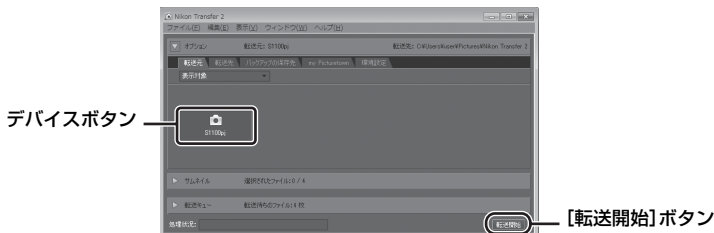
- 電源ランプが点灯します。カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

✔ USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 パソコンでViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」を起動する

- **Windows 7 の場合：**
  ［**デバイスとプリンター ▶S1100pj**］画面が表示されたら、［**画像とビデオのインポート**］の下の［**プログラムの変更**］をクリックします。［**プログラムの変更**］ダイアログで［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］を選び、［**OK**］をクリックします。
  ［**デバイスとプリンター ▶S1100pj**］画面で［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックします。
- **Windows Vista の場合：**
  ［**自動再生**］ダイアログが表示されたら、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］をクリックします。
- **Windows XP の場合：**
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面が示されたら、［**Nikon Transfer 2画像ファイルを取り込む**］を選び、［**OK**］をクリックします。
- **Mac OS Xの場合：**
  Nikon Transfer 2のインストールで、［**自動起動の設定**］を［**はい**］にした場合は、カメラを接続するとNikon Transfer 2が自動起動します。

- SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2の起動に時間がかかる場合があります。

6 オプションエリアの［**転送元**］パネル内に、接続したカメラ名のデバイスボタンが表示されていることを確認し、［**転送開始**］ボタンをクリックする

- パソコンに転送されていないすべての画像が転送されます（ViewNX 2の初期設定）。

- 転送が終わると、ViewNX 2が自動的に起動します（ViewNX 2の初期設定）。転送した画像を確認できます。

- ViewNX 2の操作方法については、ViewNX 2のヘルプをご覧ください(□135)。

カメラとパソコンの接続を外すときは

- 転送中は、電源をOFFにしたり、カメラとパソコンの接続を外したりしないでください。
- 接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。

転送に市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使う

SD カード内の画像は、市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使っても、ViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」で転送できます。

- カードリーダーなどの機器が、お使いのSDカードに対応しているかご確認ください。
- カードリーダーまたはカードスロットに SD カードを入れ、手順 5（133）以降を参照して、画像を転送してください。
- 内蔵メモリーに記録したデータは、カメラでSDカードにコピーしてから（161）転送してください。

ViewNX 2またはNikon Transfer 2を手動で起動するには

- Windows ：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ViewNX 2**］→［**ViewNX 2**］の順にクリックします。デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックしても起動できます。
- Mac OS X ：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Nikon Software**］→［**ViewNX 2**］の順にフォルダーを開き、［**ViewNX 2**］アイコンをダブルクリックします。Dockの［**ViewNX 2**］アイコンをクリックしても起動できます。
- Nikon Transfer 2は、ViewNX 2画面の［**Transfer**］をクリックして起動します。

ViewNX 2またはNikon Transfer 2の詳しい使い方（ヘルプ）を見るには

ViewNX 2またはNikon Transfer 2を起動して、メニューバーの［**ヘルプ**］→［**ViewNX 2ヘルプ**］を選ぶと、ヘルプ画面を表示して詳しい使い方を見ることができます。

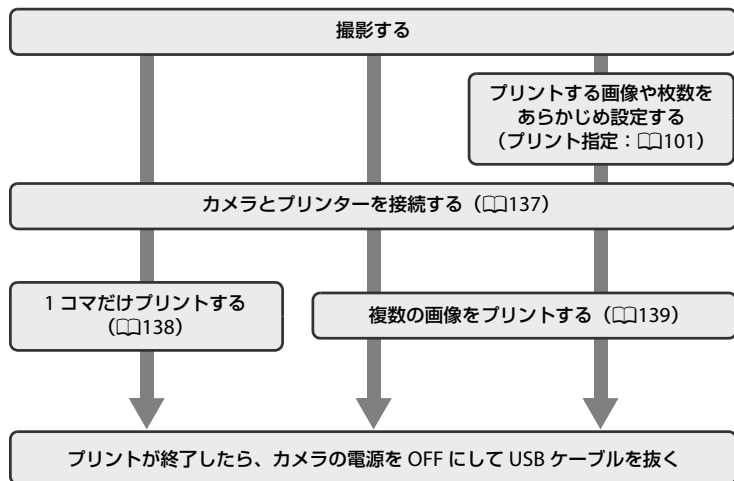
パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker 5）

- シーンモードの［**パノラマアシスト**］機能（71）を使って撮影した画像を、Panorama Maker 5を使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Maker 5は、付属のViewNX 2 CD-ROMでインストールできます。
- Panorama Maker 5をインストールしたら、次のように起動します。
  Windows：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ArcSoft Panorama Maker 5**］→［**Panorama Maker 5**］の順にクリックします。
  Mac OS X：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Panorama Maker 5**］をダブルクリックします。
- Panorama Maker 5の使い方は、Panorama Maker 5の操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

プリンターに接続する

PictBridge（□196）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、次のとおりです。

電源についてのご注意

- プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Fを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から COOLPIX S1100pjへ電源を供給できます。EH-62F以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に以下の方法でプリントできます。

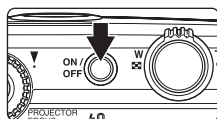
- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、カメラの［**プリント指定**］メニューを使って、あらかじめSDカードに設定できます（□101）。

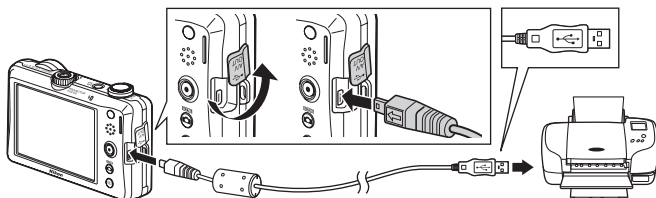
カメラとプリンターを接続する

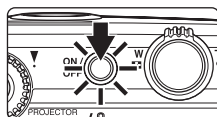
カメラとプリンターを接続するときは、パソコンに接続する前に、セットアップメニュー→［**インターフェース**］（⧉155）→［**USB**］の設定を［**MTP/PTP**］に設定します。

- ご購入時は、［**MTP/PTP**］に設定されています。

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに［**PictBridge**］画面（①）が表示された後、［**プリント画像選択**］画面（②）が表示されます。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（🕮137）、以下の手順でプリントしてください。

1 ▲または▼をタッチしてプリントする画像を選び、OKをタッチする

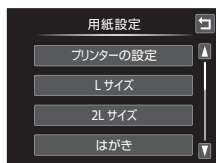
- スクロールバーをタッチしても、前後の画像を表示できます。
- 🔍をタッチするか、ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと9コマ表示に切り換わります。🔍をタッチするか、ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［**プリント枚数設定**］をタッチする

3 プリントしたい枚数（9枚まで）をタッチする

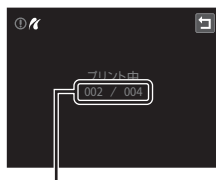
4 ［**用紙設定**］をタッチする

5 印刷したい用紙サイズをタッチする

- ▲または▼をタッチすると、前後のページを表示します。
- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［**プリント実行**］をタッチする

7 プリントが始まる

プリント中の枚数/総枚数

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、↩をタッチします。

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□137）、以下の手順でプリントしてください。

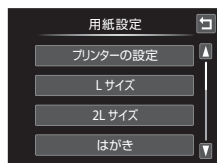
1 ［**プリント画像選択**］画面が表示されたら、MENUをタッチする

- ［**プリントメニュー**］画面が表示されます。

2 ［**用紙設定**］をタッチする

- プリントメニューを終了したいときは、↩をタッチします。

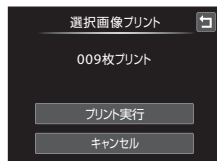
3 印刷したい用紙サイズをタッチする

- ▲または▼をタッチすると、前後のページを表示します。
- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

4 ［プリント選択］、［全画像プリント］または［DPOFプリント］をタッチする

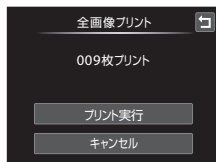
プリント選択

プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- プリントしたい画像をタッチして選び、画面左上の ▲ または ▼ をタッチしてプリント枚数を設定します。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- 🔍 をタッチするか、ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に切り換わります。🔍 をタッチするか、ズームレバーを **W**（▦）方向に回すと 9 コマ表示に切り換わります。
- RESET をタッチすると、すべての画像の選択を解除します。
- 設定が終了したら OK をタッチします。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］をタッチすると画像のプリントが始まります。↩ をタッチすると、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

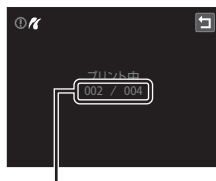
- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］をタッチすると画像のプリントが始まります。↩ をタッチすると、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［**プリント指定**］（📖101）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］をタッチすると画像のプリントが始まります。↩ をタッチすると、プリントメニューに戻ります。

- ［**画像の確認**］をタッチすると、どの画像をプリント指定したか確認できます。OK をタッチすると、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、↩ をタッチします。

プリント中の枚数/総枚数

用紙設定について

用紙設定画面では、［**プリンターの設定**］以外に、［**L サイズ**］、［**2L サイズ**］、［**はがき**］、［**100×150mm**］、［**4×6 in.**］、［**8×10 in.**］、［**Letter**］、［**A3 サイズ**］、［**A4 サイズ**］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

セットアップメニュー

セットアップメニューで以下の設定ができます。

	オープニング画面	144
	カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。	
	日時設定	145
	内蔵時計を合わせます。	
	モニター設定	148
	再生時の表示設定、撮影後の画像表示または画面の明るさを設定します。	
DATE	**デート写し込み**	149
	撮影日時を画像に写し込む設定ができます。	
	手ブレ補正	150
	撮影するときの手ブレ補正を設定します。	
	AF**補助光**	151
	AF補助光の点灯/非点灯を設定します。	
	動画照明	126
	動画撮影時の動画照明の点灯/非点灯を設定します。	
	電子ズーム	152
	電子ズームの動作を設定します。	
AF	**動画**AF**モード**	127
	動画撮影時のオートフォーカスの方法を選びます。	
	操作音	152
	操作音について設定します。	
	オートパワーオフ	153
	節電のために液晶モニターが消灯するまでの時間を設定します。	
IN/	**メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット）**	154
	内蔵メモリー /SDカードを初期化します。	
	言語/Language	155
	画面に表示する言語を設定します。	
	インターフェース	155
	パソコンやテレビとの接続に必要な設定を行います。	
	目つぶり検出設定	156
	顔認識撮影したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。	

C	**設定クリアー**	158
	各種設定を初期設定に戻します。	
	画像コピー	161
	内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	
Ver.	**バージョン情報**	162
	ファームウェアの情報を表示します。	

セットアップメニューの操作方法

1 撮影時または再生時に、下のタブをタッチする

- タブの基本操作→16

2 をタッチする

- セットアップメニューが表示されます。

3 設定したいメニューをタッチする

- またはをタッチすると、前後のページを表示します。
- をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。
- OKが表示される画面では、OKをタッチすると設定が有効になります。

- セットアップメニューを終了するには、をタッチするか、シャッターボタンを押します（撮影時）。

オープニング画面

下のタブをタッチする（143）➔（セットアップメニュー）をタッチする➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しないで、撮影または再生画面を表示します。

COOLPIX

オープニング画面を表示してから、撮影または再生画面を表示します。

撮影した画像

撮影した画像をオープニング画面として表示します。［**画像の選択**］画面が表示されたら画像を選び、OKをタッチして登録します。

- ［**画像の選択**］画面で、をタッチするか、ズームレバーを **T**（）方向に回すと 1 コマ表示に、をタッチするか、ズームレバーを **W**（）方向に回すと 9 コマ表示に切り換わります。
- 登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。
- ［**画像モード**］（39）を ［**3968 × 2232**］にして撮影した画像、およびスモールピクチャー（121）やトリミング（122）で作成した画像サイズ 320 × 240 以下の画像は登録できません。

日時設定

下のタブをタッチする（143）➔（セットアップメニュー）をタッチする ➔ 日時設定

カメラに内蔵された時計を設定します。

日時

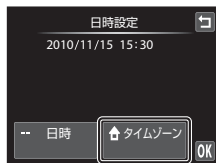
内蔵時計の日付と時刻を設定します。
表示される設定画面で、年月日の並び順、項目（年、月、日、時、分）をタッチして設定します。
- 項目を選ぶ：変更したい項目をタッチする。
- 項目の内容を合わせる：▲▼ をタッチする。
- 設定を完了する：OK をタッチする（23）。

タイムゾーン

自宅（）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（）のタイムゾーンを登録すると、自宅（）との時差（147）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

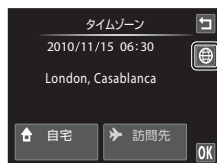
時差のある地域で使うには

1 ［タイムゾーン］をタッチする

- ［**タイムゾーン**］画面が表示されます。

2 ［訪問先］をタッチする

- 訪問先の時計に切り換わります。

3 🌐をタッチする

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶をタッチして訪問先の地域（タイムゾーン）を選び、OKをタッチする

- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、をタッチして夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部にマークが表示され、時計が1時間進みます。オフにするには、もう一度をタッチします。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に✈マークが表示されます。

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、カメラに入れるバッテリーとは別の時計用電池で動いています。カメラにバッテリーを入れるかACアダプターを接続すると、時計用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

🏠（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で［🏠 **自宅**］をタッチしてください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で［🏠 **自宅**］をタッチして、［✈ **訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）が始まったときや終わったときは、手順4の地域設定画面で、夏時間のオンとオフを切り換えてください。

日付を画像に写し込むには

日時を設定した後に、セットアップメニューの［**デート写し込み**］（📖149）で設定します。［**デート写し込み**］を設定して撮影すると、撮影日時を画像に写し込んで記録できます。

タイムゾーンについて

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**日時設定**］で合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン	時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）	–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）	–7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）	–6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）	–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）	–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）	–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）	–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–13.5	Caracas（カラカス）	–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–13	Manaus（マナウス）	–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
–12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）	±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）	+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
–10	Azores（アゾレス）	+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）	+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

🖵 モニター設定

下のタブをタッチする（🕮143）➔ 🔧（セットアップメニュー）をタッチする ➔ 🖵 モニター設定

以下の項目を設定します。

再生時の表示設定

再生時の画面に表示される情報について設定します。

液晶モニターの表示内容については→🕮14

- ［**情報 ON**］：

- ［**情報 AUTO**］（初期設定）：［**情報 ON**］と同じ情報を表示した後、操作しない状態が数秒経過すると、情報表示が OFF になります。操作すると、再び情報を表示します。

撮影後の画像表示

- ［**ON**］（初期設定）：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。
- ［**OFF**］：撮影直後に、撮影した画像を表示しません。

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。

DATE デート写し込み（日付の写し込み）

下のタブをタッチする（□143）➔ Y（セットアップメニュー）をタッチする ➔ DATE デート写し込み

撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（□104）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

DATE　年・月・日

画像に日付を写し込みます。

DATE　年・月・日・時刻

画像に日付と時刻を写し込みます。

OFF（初期設定）

日付、時刻のどちらも写し込みません。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（□12）。［**OFF**］のときは何も表示されません。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- 以下の場合は日付を写し込めません。
  - シーンモードの［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］または［**パノラマアシスト**］にしたとき
  - ベストフェイスモードの［**目つぶり軽減**］（□76）が［**ON**］のとき
  - 連写の設定（□58）が［**連写**］または［**BSS**］のとき
  - 動画のとき
  - ［**手ブレ補正**］（□150）が［**ON（ハイブリッド）**］のとき
- ［**画像モード**］（□39）が VGA［**640 × 480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像モードは PC［**1024×768**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**日時設定**］（□22、145）での設定と同じになります。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（□101）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

手ブレ補正

下のタブをタッチする（143）➔（セットアップメニュー）をタッチする ➔ 手ブレ補正

撮影するときの手ブレ補正を設定します。
望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを補正します。静止画撮影だけでなく、動画撮影時の手ブレも補正します。
三脚などでカメラを固定して撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

ON（ハイブリッド）

レンズシフト方式で手ブレを光学的に補正し、さらに静止画撮影時に以下の条件になると、画像処理による電子式手ブレ補正を加えて記録します。
- フラッシュを発光しないとき
- シャッタースピードが 1/60 秒より低速のとき
- ［**セルフタイマー**］が OFF のとき
- ［**連写**］の設定が［**単写**］のとき
- ISO 感度が 200 以下のとき

ON（初期設定）

レンズシフト方式で手ブレを補正します。

OFF

手ブレ補正をしません。

手ブレ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（12、27）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源を ON にした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。
- ブレが極端に小さいときや大きいときは、［**ON（ハイブリッド）**］に設定しても電子式手ブレ補正で画像補正できないことがあります。
- シャッタースピードが速いとき、または極端に遅いときは、［**ON（ハイブリッド）**］に設定しても電子式手ブレ補正は作動しません。
- ［**デート写し込み**］（□149）と［**手ブレ補正**］の［**ON（ハイブリッド）**］は同時に使えません。［**手ブレ補正**］を［**ON（ハイブリッド）**］にして撮影するときは、デート写し込みは［**OFF**］になります。
- ［**ON（ハイブリッド）**］で電子式手ブレ補正が作動するときは、撮影すると自動的にシャッターを2回きって画像補正をするため、通常よりも画像の記録に時間がかかります。［**シャッター音**］（□152）が鳴るのは1回目のみです。記録する画像は1コマです。

AF補助光

下のタブをタッチする（□143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ AF補助光

暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約3.5 m、望遠側で約2.0 mです。
ただし、［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがあります。

回 電子ズーム

下のタブをタッチする（□143）➔ Y（セットアップメニュー）をタッチする ➔ 回 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

ON（初期設定）

光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズーム（□29）が作動します。

OFF

電子ズームは作動しません（動画撮影中を除く）。

電子ズームについてのご注意

- 電子ズーム作動中はAFエリアが中央に固定されます。
- 以下の場合、電子ズームは使えません。
  - タッチ撮影が［**ターゲット追尾**］のとき
  - シーンモードが［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］のとき
  - ベストフェイスモードのとき
  - ［**マルチ連写**］（□58）のとき

操作音

下のタブをタッチする（□143）➔ Y（セットアップメニュー）をタッチする ➔ 操作音

操作音について設定します。

設定音

設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）、警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）およびオープニング音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

シャッター音

シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。
ただし、連写、BSSなどで撮影するときや、動画撮影時は、［**ON**］に設定しても、シャッター音は鳴りません。

オートパワーオフ

下のタブをタッチする（143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります（21）。
このメニューでは、撮影時または再生時に待機状態になるまでの時間を設定します。
［**30秒**］、［**1分**］（初期設定）、［**5分**］、［**30分**］から選べます。

節電により液晶モニターが消灯したときは

- 待機状態では、電源ランプが点滅します。
- 待機状態が約3 分続くと電源はOFFになります。
- 電源ランプの点滅中は、以下のボタンを押すと液晶モニターが再点灯します。
  → 電源スイッチ、シャッターボタン、ボタン、または●（動画撮影）ボタン

オートパワーオフの設定について

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。
- 設定画面、モードメニュー、セットアップメニュー表示中：3分
- スライドショー再生中：最大30分
- ACアダプター EH-62F接続中：30分

プロジェクターモードのオートパワーオフ設定について

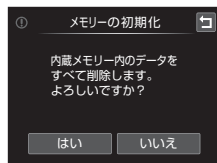
プロジェクター投映時のオートパワーオフ設定は、プロジェクター設定メニューの［**オートパワーオフ**］（173）で設定します。

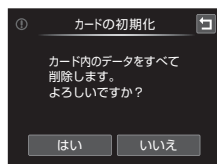
/メモリー/カードの初期化（フォーマット）

下のタブをタッチする（143）➔（セットアップメニュー）をタッチする ➔ メモリーの初期化/ カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

初期化についてのご注意

- **内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、内蔵メモリー/SDカード内のデータはすべて削除されます。**必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。
- 内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、お気に入りフォルダーのアイコン設定（89）は初期設定（数字アイコン）に戻ります。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

下のタブをタッチする（143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ 言語/Language

画面に表示する言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

インターフェース

下のタブをタッチする（143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ インターフェース

パソコンやテレビとの接続に必要な設定を行います。

USB

パソコンやプリンターと接続するときの通信方法を選びます。

- ［**MTP/PTP**］（初期設定）：カメラからパソコンへ画像を転送するとき（131）、またはプリンターと接続するとき（136）に選びます。
- ［**プロジェクター**］：パソコンの画面を内蔵プロジェクターで投映するときに選びます。

ビデオ出力

テレビと接続するときのビデオ出力方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。［**NTSC**］と［**PAL**］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

目つぶり検出設定

下のタブをタッチする（143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ 目つぶり検出設定

以下の撮影モードで顔認識撮影（50）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

- （らくらくオート撮影）モード（26）または（オート撮影）モード（52）
- シーンモードの［**ポートレート**］（64）または［**夜景ポートレート**］（65）

ON

顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに［**目つぶり確認**］画面を表示します。
目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
➞「目つぶり確認画面の操作方法」（157）

OFF（初期設定）

目つぶり検出をしません。

目つぶり確認画面の操作方法

［**目つぶり確認**］画面が表示されたときは、以下の操作ができます。
何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

機能	アイコン/ボタン	内容
目つぶり検出した顔を拡大表示する	**T**（Q）	ズームレバーを **T**（Q）方向に回します。 複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に◎または◎をタッチすると、拡大表示する顔が切り換わります。
1コマ表示に戻る	**W**（▦）	ズームレバーを **W**（▦）方向に回します。
撮影した画像を削除する	🗑	🗑をタッチします。
撮影画面に戻る	OK	液晶モニターにタッチするか、OKまたはXをタッチします。シャッターボタンを押しても撮影画面に戻ります。
	X	

目つぶり検出設定についてのご注意

連写の設定が［**連写**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］のときは、目つぶり検出をしません。

設定クリアー

下のタブをタッチする（143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ 設定クリアー

［**はい**］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（34）	自動発光
セルフタイマー（37）	OFF
画像モード（39）	4320×3240
動画設定（125）	HD 720p (1280×720)
タッチ撮影（41、44、55）	タッチシャッター
露出補正（47）	0

オート撮影モード

項目	初期設定
マクロモード（54）	OFF
ISO感度設定（57）	オート
連写（58）	単写
ホワイトバランス（59）	オート

シーンモード

項目	初期設定
シーンエフェクト調整（63）	中央

ベストフェイスモード

項目	初期設定
美肌効果（75）	標準
目つぶり軽減（76）	OFF
笑顔自動シャッター（76）	ON

再生モード

項目	初期設定
スライドショー（□98）効果	クラシック

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（□144）	なし
再生時の表示設定（□148）	情報AUTO
撮影後の画像表示（□148）	ON
画面の明るさ（□148）	3
デート写し込み（□149）	OFF
手ブレ補正（□150）	ON
AF補助光（□151）	AUTO
動画照明（□126）	OFF
電子ズーム（□152）	ON
動画AFモード（□127）	シングルAF
設定音（□152）	ON
シャッター音（□152）	ON
オートパワーオフ（□153）	1分
目つぶり検出設定（□156）	OFF

プロジェクターモードのスライドショー設定

項目	初期設定
効果（□171）	クラシック
インターバル設定（□171）	3秒
BGM（□171）	なし
音量（□171）	中

プロジェクター設定メニュー

項目	初期設定
パワーセーブ（□172）	OFF
オートパワーオフ（□173）	5分
階調補正（□173）	ON

その他

項目	初期設定
用紙設定（□138、139）	プリンターの設定

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（□181）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー/SDカード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。ファイル番号の連番を「0001」に戻したいときは、内蔵メモリー/SDカード内の画像をすべて削除（□33）してから、［**設定クリアー**］を行ってください。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  撮影の設定：
  ［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（□60）
  セットアップメニュー：
  ［**日時設定**］（□145）、［**言語/Language**］（□155）、［**インターフェース**］（□155）の［**USB**］と［**ビデオ出力**］

画像コピー（内蔵メモリーとSDカード間のコピー）

下のタブをタッチする（143）➔ （セットアップメニュー）をタッチする ➔ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 コピーする方向をタッチする

- IN➔SD：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- SD➔IN：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法をタッチする

- ［**選択画像コピー**］：画像を選んでコピーします。→手順3へ
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。確認画面が表示されたら、［**はい**］をタッチしてください。画像がコピーされます。［**いいえ**］をタッチすると、コピーせずにセットアップメニューに戻ります。

3 コピーしたい画像をタッチする

- 選択した画像にはチェックマークが表示されます。もう一度タッチすると、チェックマークが外れます。
- をタッチするか、ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、をタッチするか、ズームレバーを**W**（）方向に回すと9コマ表示に切り換わります。

4 OKをタッチする

- 確認画面が表示されたら、［**はい**］をタッチしてください。画像がコピーされます。［**いいえ**］をタッチすると、コピーせずにセットアップメニューに戻ります。

画像コピーについてのご注意

- コピーできるファイルの形式は、JPEG、MOV、WAVです。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 画像コピーでは、画像に付けた「音声メモ」（106）も画像と同時にコピーします。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（101）した画像をコピーしても、プリント指定の設定内容はコピーされません。ランク設定した画像（97）や［**プロテクト設定**］（99）した画像をコピーすると、これらの設定内容はコピー先の画像にも反映されます。
- 内蔵メモリーまたは SD カードからコピーした画像や動画は、オート分類再生モード（91）では表示できません。
- お気に入り登録（84）した画像をコピーしても、お気に入り登録の登録内容はコピーされません。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されますが、以下の操作をすると、内蔵メモリーの画像をSDカードにコピーできます。

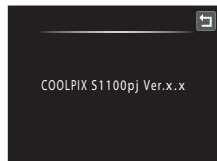
1. 下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、Yをタッチする
2. 表示されるセットアップメニューで［**画像コピー**］をタッチする

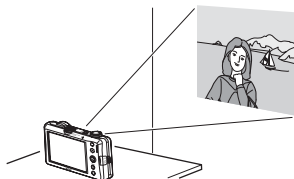
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→181

Ver. バージョン情報

下のタブをタッチする（143）➔ Y（セットアップメニュー）をタッチする ➔ Ver. バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

プロジェクターで投映する（プロジェクターモード）

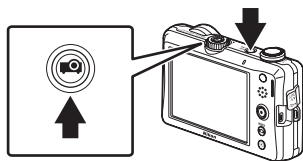
COOLPIX S1100pj は、プロジェクターを内蔵しています。撮影した画像や動画を気軽に投映できるので、ご家族やご友人と一緒に鑑賞したいときなどに便利です。

画像を投映する

1 カメラを設置する

- カメラを、机の上など水平で安定したところに置きます。
- プロジェクター窓を市販のスクリーンや白い平面に向けて設置します。
- カメラとスクリーンの距離は、26 cm～2.4 mが目安です（□165）。

2 カメラの電源をONにして、▣ボタンを押す

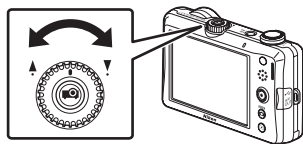
- プロジェクターモードになり、内蔵メモリーまたはSDカード内の画像が1コマ表示で投映されます。

- リモコンの▣ボタンを押しても、プロジェクターモードに切り換わります。リモコンで投映の操作をすると、カメラの液晶モニターは消灯します。液晶モニターをタッチすると再点灯し、タッチ操作ができます（□166）。

3 カメラの位置を調節する

- 投映サイズを変えるには、カメラを前後に移動して、カメラからスクリーンまでの距離を調節します。
- ゆがみが少なくなるようにカメラの向きを調節します。

4 投映した画像のピントを合わせる

- 部屋を暗くしてください。
- プロジェクターフォーカスダイヤルを回してピントを合わせます。

5 付属のリモコンで画像を切り換える

- 約5 m以内の距離でリモコンの送信部をカメラ前面または背面のリモコン受光部（□4、5）に向けます。

- リモコンの操作について詳しくは、「プロジェクターモード時の操作」（□166）をご覧ください。

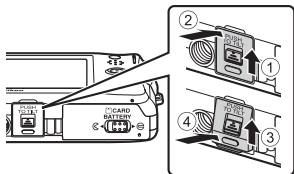
6 リモコンの投映ボタンを押して投映を終了する

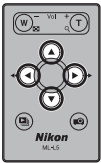
- カメラの投映ボタンを押すか、撮影ボタンを押して撮影モードに切り換えても、投映が終了します。

プロジェクター使用時のご注意

- プロジェクターをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」（□ii）、「注意」（□iii）の注意事項を必ずお守りください。
- プロジェクターモードにすると、カメラやバッテリーが高温になりますのでご注意ください。長時間投映した後は、温度が下がってからお使いください。
- バッテリー残量が少なくなると、投映する画面の明るさを自動調整し、消費電力を抑えます。

プロジェクター脚について

- 内蔵のプロジェクター脚を使うと、設置した机などで画像が遮られないように、少し上向きに投映できます。
- プロジェクター脚のロックレバーをスライドしながら（①）、押すと（②）、脚が出ます。収納するときは、ロックレバーをスライドしながら（③）、押し込みます（④）。
- プロジェクター脚を使うと、少し上向きに投映するため、台形のゆがみが発生します。プロジェクター脚のかわりに三脚でカメラを設置すると、カメラとスクリーンの位置を調節しやすくなり、台形のゆがみも調節できます。

投映時の節電機能について

投映したまま操作しない状態が続くと、バッテリーの消耗を抑えるために投映が終了して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。

- 電源ランプの点滅中は、以下のボタンを押すと再生/撮影モードで液晶モニターが再点灯します。
  - 再生モード：電源スイッチ、シャッターボタン、▶ボタン
  - 撮影モード：📷ボタン
- 投映を再開したいときは、再生モードまたは撮影モードで、もう一度プロジェクターボタンを押してください。
- 画像投映中の無操作時に待機状態に入るまでの時間は、プロジェクター設定メニュー（🕮172）の［**オートパワーオフ**］（🕮173）で変更できます。

投映距離と投映サイズについて

投映距離	投映サイズ
26 cm	約10 × 7.5 cm（5型相当）
50 cm	約20 × 15 cm（10型相当）
1.0 m	約40 × 30 cm（20型相当）
1.5 m	約60 × 45 cm（30型相当）
2.4 m	約94 × 70 cm（47型相当）

プロジェクターモード時の操作

プロジェクターモードの1コマ表示中に、リモコン（□6）またはカメラで以下の操作ができます。

機能	リモコン/カメラのボタン	内容	□
前後の画像を表示する		リモコンの▲▼◀▶ボタンを押します。▲▼◀▶ ボタンを押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りできます。 カメラの液晶モニターで画像をドラッグしても、前後の画像を表示できます。	10
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。 リモコンの決定ボタンを押すか、カメラの液晶モニターの☒をタッチすると、1コマ表示に戻ります。 画像を拡大しても、プロジェクターモードではトリミング（□122）できません。	82
画像を一覧表示する	W（▦）	9コマのサムネイル画像を表示します。 画像を選ぶときは、リモコンの▲▼◀▶ボタンを押します。 リモコンの決定ボタンを押すか、カメラの液晶モニターの画像をタッチすると、1コマ表示に戻ります。	80
動画を再生する	▶	▶が表示されている画像が動画です。 リモコンの決定ボタンを押すか、カメラの液晶モニターの▶をタッチすると、再生します。	167
スライドショーを開始する	▣	リモコンの▣ボタンを押します。 カメラの液晶モニター下のタブをタッチして設定アイコンを表示し、▣をタッチすると、スライドショー再生時の設定を変更できます。	169
投映に関する設定をする	下のタブ	カメラの液晶モニター下のタブをタッチして設定アイコンを表示すると、［**ペイント**］、［**メイクアップ効果**］または［**スライドショー**］ができます。	168

機能	リモコン/カメラのボタン	内容	📖
画像にランクを設定する/ランク別に再生する	右のタブ（★）	画像に5段階のランクを設定できます。ランク別に再生できます。	97
再生モードを切り換える	▶（カメラのみ）	再生モードメニューを表示して、お気に入り再生モード、オート分類再生モード、撮影日一覧モードへの切り換えができます。	83
投映を終了する	📽	撮影または再生モードに戻ります。	8
	📷（カメラのみ）	撮影モードに切り換わります。	

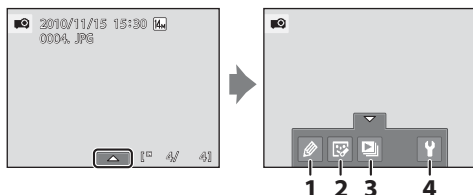
動画を投映する

プロジェクターモードの1コマ表示で、▶が表示されている画像が動画です。リモコンの決定ボタンを押すか、カメラの液晶モニターの▶をタッチすると、再生できます。
動画再生中のカメラの液晶モニターでの操作は、「動画を再生する」（📖128）をご覧ください。リモコンを使うと、以下の操作ができます。

<table>
<tr><th>機能</th><th>リモコンのボタン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>巻き戻し/早送りする</td><td>◀▶</td><td colspan="2">押し続けている間、巻き戻し/早送りします。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一時停止する</td><td>決定ボタン</td><td colspan="2">決定ボタンを押すと、一時停止します。
一時停止中に、リモコンで以下の操作ができます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>◀</td><td>押し続けている間、連続でコマ戻しします。</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>押し続けている間、連続でコマ送りします。</td></tr>
<tr><td>決定ボタン</td><td>決定ボタンを押すと、再生を再開します。</td></tr>
<tr><td>音量を調節する</td><td>T（＋）/
W（－）</td><td colspan="2">音量を調節します。</td></tr>
<tr><td>再生を終了する</td><td>▣</td><td colspan="2">1コマ表示に戻ります。</td></tr>
</table>

投映時の設定を変える

プロジェクターモードで、タブをタッチして設定アイコンを表示すると、画像にペイントしたり、効果をつけてスライドショーで投映したりできます。

- 設定したい項目のアイコンをタッチすると、その項目の設定画面になります。
- 設定アイコンを非表示にするには、タブをもう一度タッチします。

1	ペイント	110

通常の再生時同様、画像に絵を描いたり、スタンプを押したりできます。画像の投映範囲を切り抜くこともできます。、、、、を使ってペイントします。ペイントした画像は、元画像とは別に保存できます（181）。

- （投映範囲の切り抜きツール）は、プロジェクターモードでペイントするときに選べます。切り抜きたい部分の外周を画像に触れながら描き、始点と終点が重なると、外側が黒くなります。

2	メイクアップ効果	119

通常の再生時同様、撮影した画像から人物の顔を検出して、顔の肌をなめらかにしたり、顔を小さく見せたり目を大きく見せたりできます。
メイクアップ効果を加えた画像は、元画像とは別に保存されます（181）。

3	スライドショー	169

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

4	プロジェクター設定	172

プロジェクターに関する基本設定を変更します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（128）は1フレーム目だけを表示します。
- スライドショーを連続再生できる時間は、エンドレス再生している場合も含め、最大約30分です（173）。

プロジェクターでスライドショーを再生する

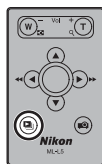
ボタンを押す（プロジェクターモード）➔ 下のタブをタッチする ➔ スライドショー

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 待機画面でカメラの位置やピントを確認する

- 「画像を投映する」（□163）の手順 3、4 に従って、カメラの位置やピントを確認してください。
- カメラの液晶モニターで（選択画像再生）をタッチすると、スライドショーで再生する画像を選んで投映できます（□170）。
- カメラの液晶モニターで（効果）、（インターバル設定）、（BGM）または（音量）をタッチすると、スライドショーの設定を変更できます（□171）。
- 繰り返し再生するには、をタッチします（エンドレス再生）。

2 リモコンのボタンを押す

- 手順 1 の待機画面を表示せずにリモコンの ボタンを押したときは、前回の設定でスライドショーを開始します。
- 手順3～4のリモコン操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作パネル、またはズームレバー **T**/**W**でもできます。

3 スライドショーが始まる

- 再生中にリモコンの ▶ ボタンを押すと次の画像、◀ボタンを押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/巻き戻しになります）。
- 一時停止するには決定ボタンを、途中で終了するにはボタンを押します。
- ［**BGM**］をつけたときは、再生中に **T**（+）/**W**（–）ボタンで音量を調節できます。

4 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中にリモコンのボタンを押すと、手順1の画面に戻ります。決定ボタンを押すと、スライドショーを再開します。

スライドショーで再生する画像を選んで投映する

1 「▣ プロジェクターでスライドショーを再生する」(□169)の手順1で、▣(選択画像再生)をタッチする

2 [ON]をタッチする

- [**画像選択**]画面が表示されます。

3 投映したい画像を下のサムネイルから選び、液晶モニター上のリストにドラッグアンドドロップ(□10)する

- リストから削除するときは、画像をサムネイルにドラッグアンドドロップします。
- リスト内の順番を変えるときは、一度画像をリストから削除して、もう一度サムネイルからリストにドラッグアンドドロップします。
- RESETをタッチすると、すべての画像の選択を解除します。

4 再生したいすべての画像をリストに入れたら、OKをタッチする

- リストが保存され、待機画面に戻ります。
- 保存できるリストは1種類だけです。再生したい画像を選び直すには、手順1からの操作をして、手順3で画像選択をやり直してください。
- リストでのスライドショーをやめるには、手順2で[**OFF**]をタッチします。
- 作成したリストは、電源をOFFにしても保存されます。

☑ 選択画像再生についてのご注意

- リストに登録できる画像は、200コマまでです。
- 同じ画像は2回登録できません。

プロジェクターを使う

スライドショーの設定を変える

「プロジェクターでスライドショーを再生する」（169）の手順1で（効果）、（インターバル設定）、（BGM）または（音量）をタッチすると、これらの設定を変更できます。

効果

［**クラシック**］（初期設定）、［**キャラクター**］、［**ズーム**］、または［**ポップ**］から選べます。

インターバル設定

画像1コマあたりの表示時間を選べます。
初期設定は［**3秒**］です。
［**手動送り**］を選ぶと、自動的に画像が切り換わらないようにできます。リモコンの◀▶ボタンを押したとき、またはカメラの液晶モニターの画像をドラッグしたときのみ画像を切り換えます。効果やBGMをつけて投映し、画像の切り換えは手動にしたいときなどに選びます。

BGM

［**アップテンポ**］、［**ノーマル**］、［**スローテンポ**］または［**なし**］（初期設定）から選べます。

音量

音量アイコンをタッチすると、BGMの音量を調節できます。

プロジェクターの設定を変更する（プロジェクター設定メニュー）

プロジェクター設定メニューで［**パワーセーブ**］（📖172）、［**オートパワーオフ**］（📖173）または［**階調補正**］（📖173）を変更できます。

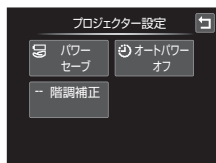
プロジェクター設定メニューの操作方法

1 プロジェクターモード時に、下のタブをタッチする

2 🔧をタッチする

- カメラの液晶モニターにプロジェクター設定メニューが表示されます。

3 設定したいメニューをタッチする

- ⮌をタッチすると、ひとつ前の画面に戻ります。
- OKが表示される画面では、OKをタッチすると設定が有効になります。
- プロジェクター設定メニューを終了するには、⮌をタッチします。

パワーセーブ

プロジェクターボタンを押す（プロジェクターモード）➔ 下のタブをタッチする ➔ 🔧（プロジェクター設定メニュー）➔ パワーセーブ

投映する画面の明るさを自動調整し、消費電力を抑えます。

ON

省電力モードで投映します。［**OFF**］の場合と比べ、画面が暗く感じられることがあります。

OFF（初期設定）

省電力モードをOFFにします。［**OFF**］に設定していても、バッテリー残量が少なくなると、投映する画面の明るさを自動調整し、消費電力を抑えます。

オートパワーオフ

ボタンを押す（プロジェクターモード）➔ 下のタブをタッチする ➔
（プロジェクター設定メニュー）➔ オートパワーオフ

プロジェクターで画像を投映したまま何も操作しないで一定時間が過ぎると、節電のために投映を終了して待機状態になります（21）。
このメニューでは、待機状態になるまでの時間を設定します。
［**30秒**］、［**1分**］、［**5分**］（初期設定）、［**30分**］から選べます。

待機状態の解除

- プロジェクターモードから待機状態になったときは、電源スイッチ、シャッターボタンまたはボタンを押すと、再生モードで復帰します。
- ボタンを押すと撮影モードで復帰します。
- 投映を再開したいときは、再生モードまたは撮影モードで、もう一度ボタンを押してください。

オートパワーオフについてのご注意

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。
- スライドショーでエンドレス再生中：30分
- 設定画面、プロジェクター設定メニュー表示中：3分

階調補正

ボタンを押す（プロジェクターモード）➔ 下のタブをタッチする ➔
（プロジェクター設定メニュー）➔ 階調補正

画像の暗い部分を明るく補正して投映します。

ON（初期設定）

投映時に画像の暗い部分を明るく補正します。補正効果は画像によって異なります。

OFF

階調補正しません。

応用：PowerPointで作成したプレゼン資料をカメラ単体で投映する

Microsoft PowerPoint® で作成したファイルをJPEG形式で保存し、SDカードにコピーすると、カメラ単体でPowerPoint資料を投映できます。

1 PowerPointで作成したファイルを、PowerPointを使ってJPEG形式で別名保存する

- 別名保存したファイル名と同名のフォルダーが作られ、その中にPowerPointのページ数分のJPEGファイルが保存されます。
- ファイルの別名保存は、必ず PowerPoint から行ってください。ファイルの別名保存や保存形式については、PowerPointのヘルプをご覧ください。

2 フォルダー名とJPEGファイル名を変更する

- フォルダー名：半角数字3桁※1+半角アルファベット5文字※2
  例：105USERS
- JPEGファイル名：FSCN+半角数字4桁※3
  例：FSCN0001.jpg、FSCN0002.jpg…

※1 3桁の数字は、手順3のDCIMフォルダー内にあるサブフォルダー名で使用されている最大数字に、1を足した数字を使用してください。例の「105」は、既存のサブフォルダーの最大数字が「104」のときの数字です。
※2 半角アルファベット5文字に「NIKON」は使えません。
※3 半角数字4桁のファイル番号は、PowerPoint資料のスライド順に合わせて付けると、その順番で投映できます。

3 カードリーダーを使用してSDカード※4をパソコンのデスクトップで開く

- DCIMフォルダーを開き、その中に手順2で作成したJPEGファイルをフォルダーごとコピーします。
- 新たに変換したファイルは、ファイルのみ同じフォルダーに追加することもできます。
- パソコンから SD カードを取り出すときは、パソコン上でリムーバブルディスクの取り外し操作を行ってから取り出してください。

※4 このカメラでフォーマットしたSDカード、または、このカメラで一度でも撮影に使用したSDカードをお使いください。

4 SDカードをカメラに入れて電源をONにし、投映ボタンを押す

- 通常の投映と同じ方法で、JPEGファイルに変換したPowerPoint資料を投映できます。

PowerPoint資料（JPEGファイル）再生時のご注意

- PowerPointのアニメーション効果は、再現できません。
- PowerPoint資料は、サムネイル表示では黒く表示されます。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ

レンズやプロジェクター窓をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでレンズやプロジェクター窓の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。以下の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください

カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズやレンズバリアーに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください

カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバックやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には

カメラを長期間お使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください

電源がONの状態で、バッテリーやACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● スミアについて

明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニターに白色または色のついた光の帯が現れることがあります。この現象は、撮像素子に強い光が入ったときに発生し、「スミア」といいます。撮像素子の特性による現象で故障ではありません。また、スミアの影響で液晶モニターに色ムラが現れることもあります。
マルチ連写と動画以外の撮影では、記録される画像にスミアの影響はありません。
マルチ連写と動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

バッテリーについて

● 使用上のご注意

- 長時間お使いになったバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が 0 ～ 40 ℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能劣化や故障の原因となります。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属のバッテリーケースに入れてください。

● 充電について

撮影の前に、充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんので、ご注意ください。

- 周囲の温度が 5～35 ℃ の室内で充電してください。
- バッテリーの温度が0～10℃、45～60℃のときは、充電できる容量が少なくなることがあります。
- バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください。バッテリー性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因となります。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、予備バッテリーをご用意ください。特に、日本国外の地域によっては入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

● 低温時のバッテリーについて

バッテリーは一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には容量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーを用意する

消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが作動しないことがあります。低温時の撮影には充分に充電したバッテリーと予備のバッテリーを用意してください。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリー接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがありますので、ご注意ください。汚れた接点は、乾いた布できれいに拭いてからお使いください。

● 残量について

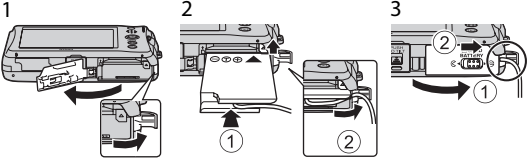
残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- バッテリーをお使いにならないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。カメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れ続けることで過放電になり、使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

● 寿命について

充分に充電したにもかかわらず、バッテリーの使用期間が極端に短くなってきたときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12
充電器	バッテリーチャージャー MH-65P※1
ACアダプター	ACアダプター EH-62F※2 ＜EH-62Fの取り付け方＞ ACアダプターのコードをACアダプターの溝に奥まで入れてからバッテリー室に入れてください。また、バッテリー/SDカードカバーを閉める前に、コードをバッテリー室の溝に奥まで入れてください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーやコードを破損するおそれがあります。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6
オーディオビデオケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP14
リモコン	リモコン ML-L5

※1 日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめのうえ、お買い求めください。

※2 日本国内専用電源コード（AC 100 V対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

推奨SDカード

下記のSDカードの動作を確認しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

	SDメモリーカード	SDHCメモリーカード※2	SDXCメモリーカード※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
TOSHIBA	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic	2 GB※1	4 GB、8 GB、12 GB、16 GB、24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
Lexar	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	-

※1　カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2　SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

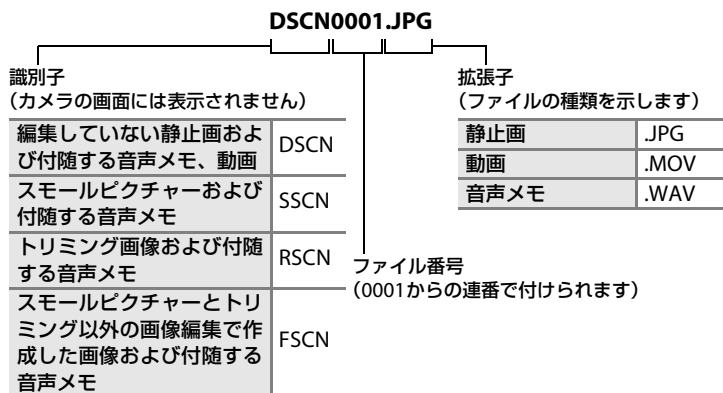
※3　SDXC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、カードメーカーにお問い合わせください。その他のメーカー製のSDカードは、動作の保証をいたしかねます。

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声メモには、以下のようにファイル名が付けられます。

識別子	
編集していない静止画および付随する音声メモ、動画	DSCN
スモールピクチャーおよび付随する音声メモ	SSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
スモールピクチャーとトリミング以外の画像編集で作成した画像および付随する音声メモ	FSCN

拡張子	
静止画	.JPG
動画	.MOV
音声メモ	.WAV

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号＋ NIKON」（例：100 NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON → 101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。
- パノラマアシストモード（🕮71）では、撮影のたびに「フォルダー番号＋P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- 内蔵メモリーと SD カードの間で記録データをコピーする場合（🕮161）、ファイル名は以下のようになります。
- 「選択画像コピー」: 使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
- 「全画像コピー」: データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。
  ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が 999 のときにファイル数が 200 個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー /SDカードを初期化（🕮154）してください。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	
(点滅)	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	145
	バッテリー残量が少なくなりました。	バッテリーの充電や交換の準備をしてください。	18、20
電池残量がありません	バッテリーの残量がありません。	バッテリーを充電または交換してください。	18、20
電池が高温です	バッテリーの温度が高温になっています。	電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。このメッセージが出ると5秒後に液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅を開始します。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	21
カメラが高温です。電源をOFFします	プロジェクターの熱でカメラが高温になっています。	自動的にカメラの電源がOFFになります。カメラの温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。	164
AF● (赤色点滅)	ピントを合わせることができません。	• ピントを合わせ直してください。 • 等距離にある別の被写体でピントを合わせる方法をお試しください。	30、31 46
記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消灯するまでお待ちください。	–
カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	25
このカードは使えません	SDカードへのアクセス異常です。	• 動作確認済みのカードを使ってください。 • カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 • カードが正しく挿入されているか確認してください。	180 24 24
カードに異常があります			

表示	意味	対処法	📖
ⓘ このカードは初期化されていません。 初期化しますか？ はい いいえ	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。	初期化するとカード内のデータはすべて削除されるため、カード内に必要なデータが残っているときは、［**いいえ**］をタッチし、初期化する前にパソコンなどに保存してください。［**はい**］をタッチすると、SDカードを初期化できます。	25
ⓘ メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	• 画像モードを変更してください。 • 不要な画像を削除してください。 • SD カードを交換してください。 • SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	39 33 24 24
ⓘ 画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	154
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	SD カードを交換するか、内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	181
	オープニング画面に登録できない画像です。	以下の画像は登録できません。 • ［**画像モード**］を［**3968×2232**］にして撮影した画像 • スモールピクチャーやトリミングで作成した画像サイズが320×240 以下の画像	144
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	33
ⓘ これ以上、お気に入り登録できません	お気に入りフォルダーの登録画像数が200 コマを超えました。	• 画像のお気に入り登録を解除してください。 • 別のお気に入りフォルダーに登録してください。	87 84
ⓘ 目つぶり検出した画像を記録しました	記録した画像に目を閉じた人がいるかもしれません。	画像を再生して確認してください。	76、79
ⓘ この画像は編集できません	編集できない画像を編集しようとしました。	• 編集可能な条件を確認してください。 • 動画は編集できません。	108 –
ⓘ 動画記録できません	SD カードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	124、180

表示	意味	対処法	📖
ⓘ 撮影画像がありません	撮影済みの画像がありません。	• 内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SD カードをカメラから取り出してください。 • 内蔵メモリーから SD カードに画像をコピーする場合は、セットアップメニューを表示すると、［**画像コピー**］が選べます。	24 161
	選んだお気に入りフォルダーに画像が登録されていません。	• 画像をお気に入りフォルダーに登録してください。 • 画像が登録されたお気に入りフォルダーを選んでください。	84 86
	オート分類再生モードで選んだ項目に、分類された画像がありません。	画像の分類された項目を選んでください。	92
ⓘ このファイルは表示できません	このカメラ以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
ⓘ このデータは再生できません			
ⓘ 表示できる画像がありません	スライドショーで表示できる画像がありません。	–	98
ⓘ このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	99
ⓘ 自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	147
ⓘ これ以上、このランクには登録できません	ランクを登録した画像数が999コマを超えました。	画像のランク設定を解除してください。	97
ⓘ このランクの画像はありません	選んだランクに、登録された画像がありません。	• 画像にランクを設定してください。 • 画像が登録されたランクを選んでください。	97 97

表示	意味	対処法	📖
レンズエラー ❗	レンズの作動不良です。	電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	21、26
ⓘ 通信エラー	プリンターとの通信中に、USBケーブルが外れました。	カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	137
システムエラー ❗	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	21
ⓘ プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］をタッチして、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］をタッチして、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］をタッチして、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］をタッチして、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］をタッチして、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］をタッチして、プリントを再開してください。※	–
ⓘ プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［**キャンセル**］をタッチして、プリントを中止してください。	–

※ プリンターの説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタン、📷 ボタン、▶ ボタン、または ●（動画撮影）ボタンを押してください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。充電が完了するまでお待ちください。 • カメラとパソコンが USB ケーブルで接続されています。 • カメラとテレビがオーディオビデオケーブルで接続されています。 • リモコンでプロジェクターモードの操作をすると、液晶モニターは消灯します。	21 26 21、153 35 132 129 163
液晶モニターがよく見えない	• 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。	148 175
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • プロジェクターモードで画像投映中にカメラが高温になりました。カメラの温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	26 153 164、182 177
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に日時未設定マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00 00:00」、動画の撮影日時が「2010/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**日時設定**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	22、145 145
撮影情報や画像情報が表示されない	セットアップメニュー［**モニター設定**］の［**再生時の表示設定**］が［**情報AUTO**］になっています。	148
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**日時設定**］が設定されていません。	22、145

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
［**デート写し込み**］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	• ［**デート写し込み**］が制限される他の機能が設定されています。 • 日付を写し込めない撮影モードになっています。	77 149
設定内容が初期状態に戻ってしまった	時計用電池が切れたため、設定がリセットされました。	146
液晶モニターが消灯し、電源ランプが同時に高速点滅する	バッテリーの温度が高温になっています。電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	21
リモコンの操作ボタンを押しても操作できない	• リモコンの電池残量がありません。 • 約5 m以内の距離でリモコンの送信部をカメラの前面または背面のリモコン受光部に向けてください。 • ベストフェイスモードで［**笑顔自動シャッター**］が［**ON**］の場合、カメラが人物の顔を認識しているときは、リモコンを使えません。 • 極端な逆光状態では、リモコン撮影ができない場合があります。	7 48、164 74 –

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影できない	• 再生モードになっているとき、設定項目やセットアップメニューが表示されているときは、シャッターボタンを押してください。 • バッテリー残量がありません。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	32 26 35
ピントが合わない	• オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。 • 電源を入れ直してください。	31 151 21
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • ISO 感度を上げて撮影してください。 • 手ブレ補正機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	34 57 150 58 37
液晶モニターに光の帯や色ムラが発生する	明るい被写体にレンズを向けるとスミアが発生することがあります。マルチ連写と動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。	177
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	35
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • ベストフェイスモードで［**目つぶり軽減**］が［**ON**］になっています。 • フラッシュが制限される他の機能が設定されています。	34 62 76 77
電子ズームが使えない	• セットアップメニュー［**電子ズーム**］が［**OFF**］になっています。 • 以下の場合、電子ズームは使えません。 - タッチ撮影が［**ターゲット追尾**］のとき - シーンモードが［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］のとき - ベストフェイスモードのとき - ［**連写**］の設定が［**マルチ連写**］のとき	152 55 64、65 73 58

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
［**画像モード**］が選べない	［**画像モード**］が制限される他の機能が設定されています。	77
シャッター音が鳴らない	セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。［**ON**］にしていても、撮影モードや設定によってはシャッター音が鳴りません。	152
AF補助光が点灯しない	セットアップメニュー［**AF補助光**］が［**OFF**］になっています。［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。	64～70、151
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	175
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスが選ばれていません。	59
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低いISO感度にしてください。	 34 57
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。シーンモードの［**逆光**］にするか、フラッシュモードを⚡（強制発光）にしてください。	34 28 34 47 57 34、69
画像が明るすぎる	露出を補正してください。	47
赤目以外の部分が補正された	⚡◉（赤目軽減自動発光）や、シーンモードの［**夜景ポートレート**］の赤目軽減スローシンクロ強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［**夜景ポートレート**］以外の撮影モードで、フラッシュモードを⚡◉（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	34、65
美肌の効果が得られない	• 撮影条件によっては、美肌効果が適切に得られないことがあります。 • 4人以上の顔を撮影した画像は、画像編集［**メイクアップ効果**］の☺（美肌）をお試しください。	74 119
画像の記録に時間がかかる	以下の場合、画像の記録に時間がかかることがあります。 • ノイズ低減機能が作動したとき • フラッシュを⚡◉（赤目軽減自動発光）にして撮影したとき • 美肌機能で撮影したとき	 35 36 64、65、75

付録、索引

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • COOLPIX S1100pj 以外で撮影した動画は再生できません。	— 128
画像の拡大表示ができない	動画やスモールピクチャー、320×240以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。	—
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • このカメラ以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラで再生できません。	128 107
画像編集ができない	• 動画は編集できません。 • ［**画像モード**］を［**3968 × 2232**］にして撮影した画像は、編集できません。 • 画像編集が可能な条件を確認してください。 • このカメラ以外で撮影した画像は編集できません。	128 39 108 108
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**インターフェース**］の［**ビデオ出力**］が正しく設定されていません。 • 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときは SD カードを取り出してください。 • カメラの液晶モニター表示に切り換わっています。	155 24 130
お気に入りフォルダーのアイコン設定が初期設定に戻っていたり､お気に入り登録した画像がお気に入り再生で表示できない	SD カード内のデータがパソコンで書き換えられると、再生できないことがあります。	—
撮影した画像がオート分類再生モードで再生できない	• 表示したい画像が、参照している項目とは別の項目に分類されています。 • このカメラ以外で撮影した画像または［**画像コピー**］でコピーした画像は、オート分類再生モードで表示できません。 • 内蔵メモリー/SDカード内の画像がパソコンで書き換えられると、表示できないことがあります。 • 1 つの分類項目で表示できるのは、999 コマまでです。すでに 999 コマ登録されている場合は、それ以降に撮影した画像は登録されません。	91 161 — 92

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transfer 2が自動起動しない	• カメラのセットアップメニュー→［**インターフェース**］→［**USB**］の設定を［**MTP/PTP**］にしてから、再接続してください。 • カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USB ケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • 対応 OS を確認してください。 • ViewNX 2 のヘルプをご覧ください。	155 21 26 132 — 131 135
カメラをプリンターに接続しても、PictBridge 起動画面が表示されない	カメラのセットアップメニュー→［**インターフェース**］→［**USB**］の設定を［**MTP/PTP**］にしてから、再接続してください。	155
プリントする画像が表示されない	• 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。 • 内蔵メモリーの画像をプリントするときは SD カードを取り出してください。	24 24
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」を行うことができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	 138、139 —
投映した画像が鮮明でない	• プロジェクター窓が汚れています。 • カメラとスクリーンの距離が近すぎるか、または離れすぎています。距離を調節してください。 • ピントが合っていません。プロジェクターフォーカスダイヤルで調節してください。	175 163 163

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX S1100pj

項目		仕様
型式		コンパクトデジタルカメラ
有効画素数		14.1メガピクセル
撮像素子		1/2.3型原色CCD、総画素数14.48メガピクセル
レンズ		光学5倍 ズーム、NIKKORレンズ
	焦点距離	5.0-25.0mm（35mm判換算28-140 mm相当の撮影画角）
	開放F値	f/3.9-5.8
	レンズ構成	9群13枚
電子ズーム		最大4倍（35mm判換算で約560 mm相当の撮影画角）
手ブレ補正		レンズシフト方式と電子式の併用（静止画） レンズシフト方式（動画）
オートフォーカス		コントラスト検出方式
	撮影距離	• レンズ前約30 cm～∞（広角側）、約50 cm～∞（望遠側） • マクロモード時は約 3 cm（△ マークから広角側）～∞
	AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央、マニュアル（タッチパネルでAFエリアを選択可能）、ターゲット追尾
液晶モニター		3型TFT液晶（タッチパネル）、約46万ドット 輝度調節機能付き（5段階）
	視野率（撮影時）	上下左右とも約97 %（対実画面）
	視野率（再生時）	上下左右とも約100 %（対実画面）
記録方式		
	記録媒体	• 内蔵メモリー（約 79 MB） • SD/SDHC/SDXC メモリーカード
	画像ファイル	DCF、Exif 2.2、DPOF準拠
	ファイル形式	静止画：JPEG 音声メモ：WAV 動画：MOV（映像：MPEG-4 AVC/H.264、音声：AAC モノラル）
画像モード（記録画素数）		• 14M（高画質）［4320 × 3240 ★］ • 14M［4320 × 3240］ • 8M［3264 × 2448］ • 5M［2592 × 1944］ • 3M［2048 × 1536］ • PC［1024 × 768］ • VGA［640 × 480］ • 16：9［3968 × 2232］

ISO感度（標準出力感度）	• ISO 80、100、200、400、800、1600、3200、6400 • オート（ISO 80 ～ 800） • 感度制限オート（ISO 80 ～ 200、80 ～ 400）
露出	
測光方式	マルチパターン測光（256分割）、中央部重点測光（電子ズームが2倍未満のとき）、スポット測光（電子ズームが2倍以上のとき）
露出制御	プログラムオート、モーション検知機能付き、露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能
露出連動範囲（オート撮影モード時）	広角側：1～16.7 EV 望遠側：2.1～17.9 EV （ISO感度オート時の連動範囲を、ISO 100のEV値にて換算）
シャッター	メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
シャッタースピード	1/1500～2 秒 4 秒（シーンモードの［**打ち上げ花火**］）
絞り	電磁駆動によるNDフィルター（－2 AV）選択方式
制御段数	2（f/3.9、f/7.8［広角側］）
セルフタイマー	約10秒、約2秒
内蔵フラッシュ	
調光範囲（ISO感度設定オート時）	約0.3～3.5 m（広角側） 約0.5～2.5 m（望遠側）
調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
インターフェース	Hi-Speed USB
通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
入出力端子	オーディオビデオ出力/デジタル端子（USB）
プロジェクター	
投映方式	単灯単板式
液晶パネル	0.4型反射型×1枚、アスペクト比4:3、約92万ドット
投映レンズ	21mm f/3.5、マニュアルフォーカス
光源	高輝度白色LED×1
画面サイズ	5～47型
投映距離	約0.26～2.4 m
色再現性	フルカラー（約1670万色）
明るさ※1	最大14 ルーメン

	コントラスト比	30:1
	解像度（出力）	VGA相当
	連続投映可能時間（電池寿命）	約1時間（EN-EL12使用時）
言語		日本語、英語の2言語
電源		Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL12（リチウムイオン充電池：付属）×1個 ACアダプター EH-62F（別売）
撮影可能コマ数（電池寿命）※2		約220コマ（EN-EL12使用時）
動画撮影可能時間（電池寿命）		約1時間35分（[**HD720p (1280×720)**]、EN-EL12使用時）
三脚ネジ穴		1/4 (ISO 1222)
寸法（幅×高さ×奥行き）		約100.8×62.7×24.1 mm（突起部除く）
質量		約180 g（バッテリー、SDメモリーカード含む）
動作環境		
	使用温度	0～40 ℃（プロジェクター使用時は0～35 ℃）
	使用湿度	85 %以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは、すべて常温（25 ℃）、リチャージャブルバッテリーEN-EL12をフル充電で使用時のものです。

※1 出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911：2003 データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件は附属書2に基づいています。

※2 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2) ℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画像モード🅼［**4320×3240**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動することがあります。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL12

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	DC 3.7 V、1050 mAh
使用温度	0～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約32×43.8×7.9 mm（突起部除く）
質量	約22.5 g（端子カバーを除く）

バッテリーチャージャー MH-65P

定格入力	AC 100～240 V、50/60 Hz、0.08～0.05 A
定格入力容量	8～12 VA
定格出力	DC 4.2 V、0.7 A
適用充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL12
充電時間	約2時間30分（残量のない状態からの充電時間）
使用温度	0～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約58×27.5×80 mm
質量	約70 g

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.2：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

マーク・英数字

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

  ●お願い

  - お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
  - より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を下記の当社ホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/support/

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：		年　　月　　日	
お買い上げ日：		年　　月　　日	
製品名：		シリアル番号：	
フリガナ お名前：			
連絡先ご住所：□自宅　　□会社 〒 TEL: FAX:			
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量： OS のバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：		ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：	
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）			

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話·公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間:9:30〜18:00(年末年始、夏期休業日等を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み

下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/support/repair/

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)が、梱包資材のお届け·修理品のお引き取り、修理後のお届け·集金までを一括して提供するサービスです。

0120-02-8155

営業時間:9:30〜18:00(年末年始12/29〜1/4を除く毎日)
※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。
修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<(株)ニコンイメージングジャパン　修理センター>

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話·公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間:9:30〜17:30(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577
(ニコンカスタマーサポートセンター) におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan

YP0G01(10)
6MM85510-01